

南箕輪村都市計画
マスタープランに係る
地域別住民説明会

南部地域 令和7年8月18日(月)

南原コミュニティセンター

西部地域 令和7年8月21日(木)

森の学び舎(防災研修センター)

東部地域 令和7年8月26日(火)

南箕輪村役場2階講堂

本日の流れ

1. 開会

2. あいさつ

3. 内容についての説明

- ・都市計画マスタープランについて
- ・南箕輪村の特性と課題
- ・全体構想について
- ・地域別ワークショップの結果について
- ・今後の予定

4. 質疑応答

5. 閉会

1. 都市計画マスタープランについて

都市計画マスタープランとは

- 土地利用や建物の建て方のルール、道路や公園などの計画を定めるものが「都市計画」です。さらにより良いむらをつくっていくために、総合的な指針として村がまとめたものが「都市計画マスタープラン」です。
- 「都市計画マスタープラン」は、おおむね20年後の都市の姿を展望しつつ、将来のまちのあるべき姿やまちづくりの基本的な方向性を示す計画です。
- 南箕輪村では、H19.3月に都市計画マスタープランを策定していますが、将来の人口動向や、頻発・激甚化する自然災害への対応、上位・関連計画との整合などを踏まえて、将来のむらのあるべき姿やむらづくりの基本的な方向性を示す都市計画マスタープランの改定版を策定します。

都市計画マスタープランの位置付け

- 上位計画である「南箕輪村第6次総合計画」、「南箕輪村人口ビジョン」、「国土利用計画（南箕輪村計画）」、長野県が広域的な視点から定める「上伊那圏域（伊那・駒ヶ根・辰野・箕輪・飯島）都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（都市計画区域マスタープラン）」等に即して、**分野別計画の方針と整合・調整を図りながら定めるものです。**
- 本計画で定める方針は、用途地域や都市計画道路等の都市計画の決定・見直しの際の根拠になるとともに、**関連する分野別計画の策定や見直し、個別・具体的なまちづくりの取組の事業化等にあたっての指針となります。**

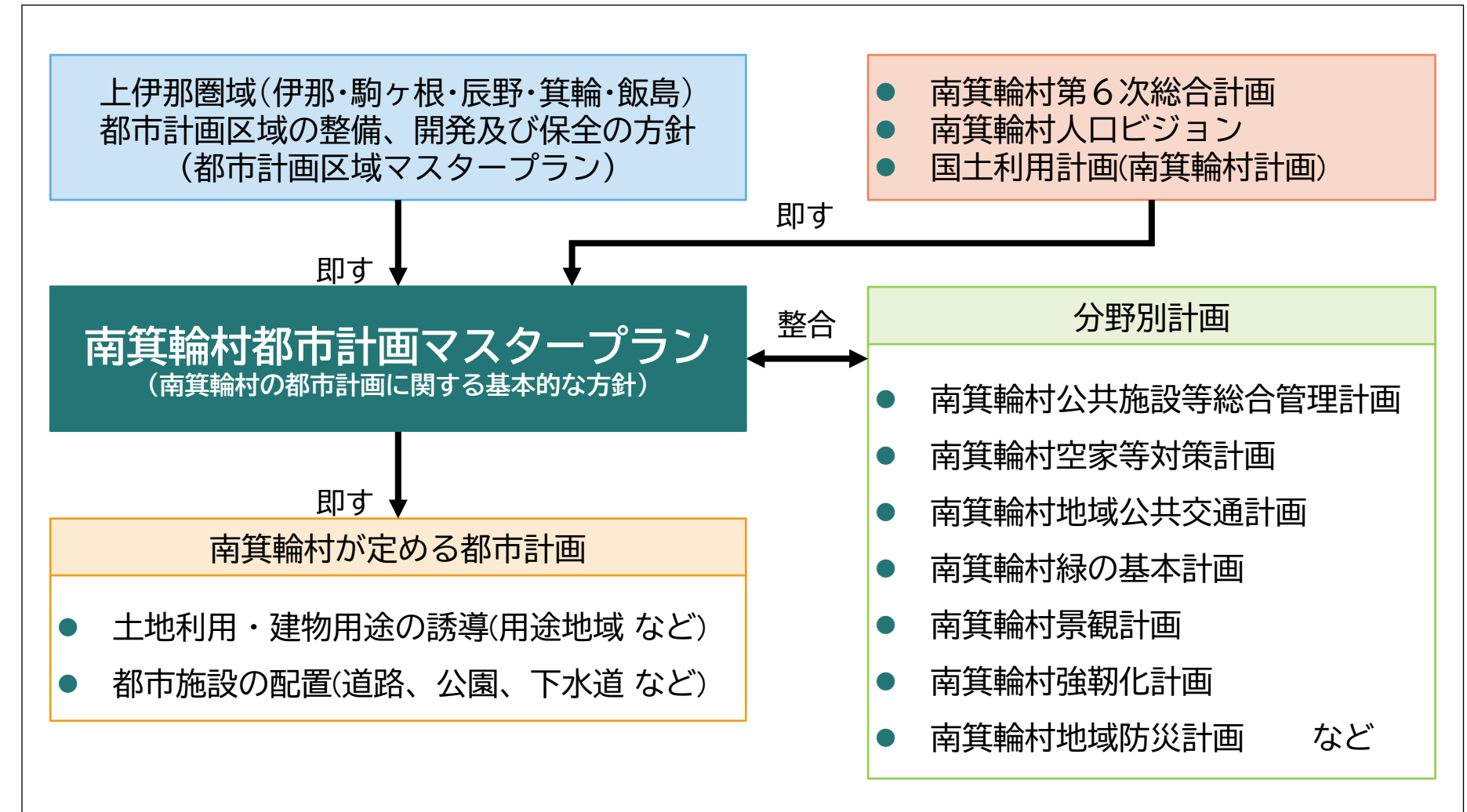


図 計画の位置づけ

計画の対象区域・対象期間

計画の対象区域

都市計画区域全域（飛地を除く南箕輪村全域）

- 本村では、飛地を除く南箕輪村全域に「都市計画区域」が指定されています。本計画の**対象区域は、「都市計画区域全域（飛地を除く南箕輪村全域）」**とします。

都市計画区域とは？

都市計画区域とは、都市計画の対象となる区域であり、農林業との健全な調和を図りつつ、健康で文化的な都市生活及び機能的な都市活動を確保するために、一体的かつ総合的に整備、開発及び保全する必要がある区域として位置づけられています。

計画の対象期間

令和8年度（2026年度）～令和27年度（2045年度）

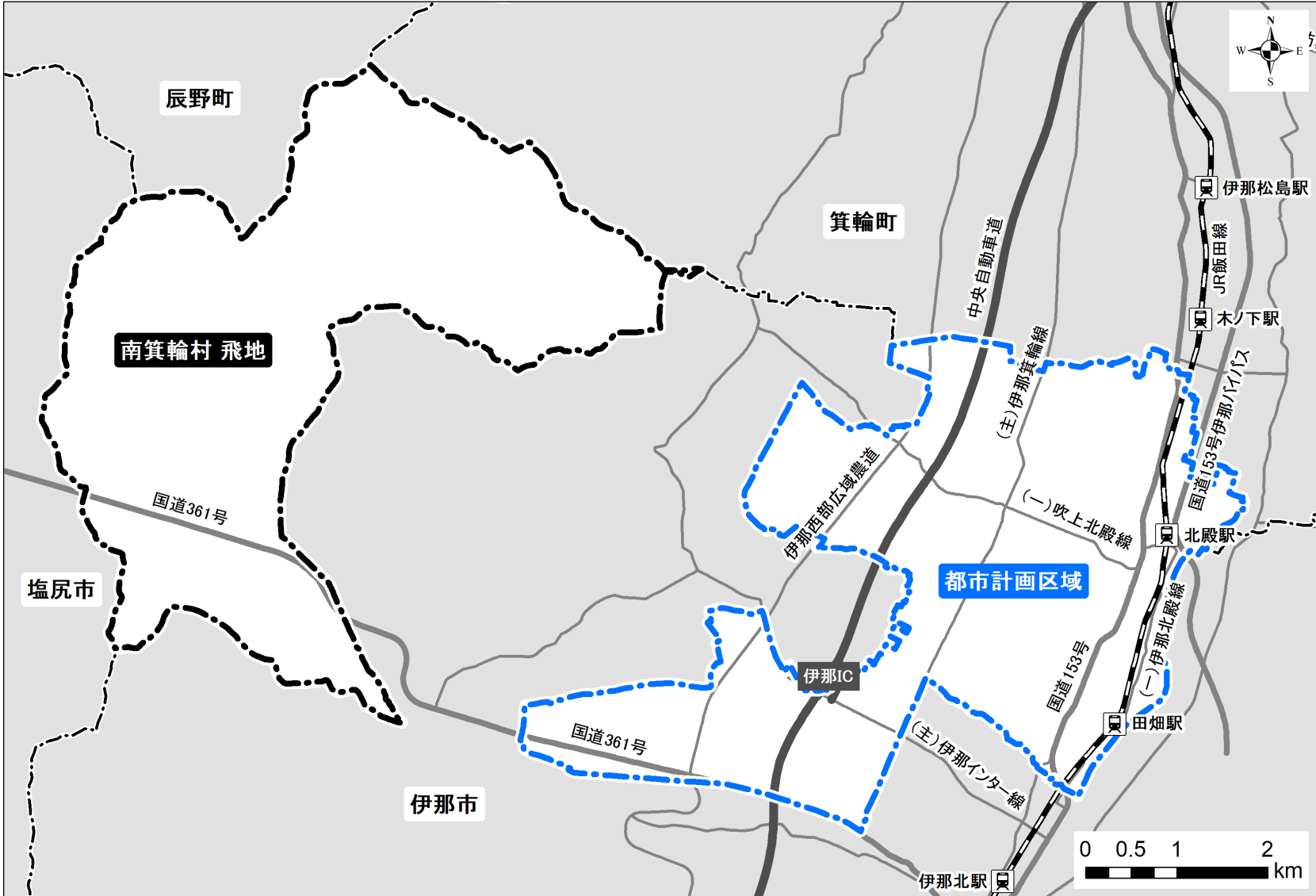


図 計画の対象区域

都市計画マスタープランの構成

- 南箕輪村都市計画マスタープランは、「南箕輪村の都市計画に関する基本的な方針」として、下図で示した6つの章で構成されます。

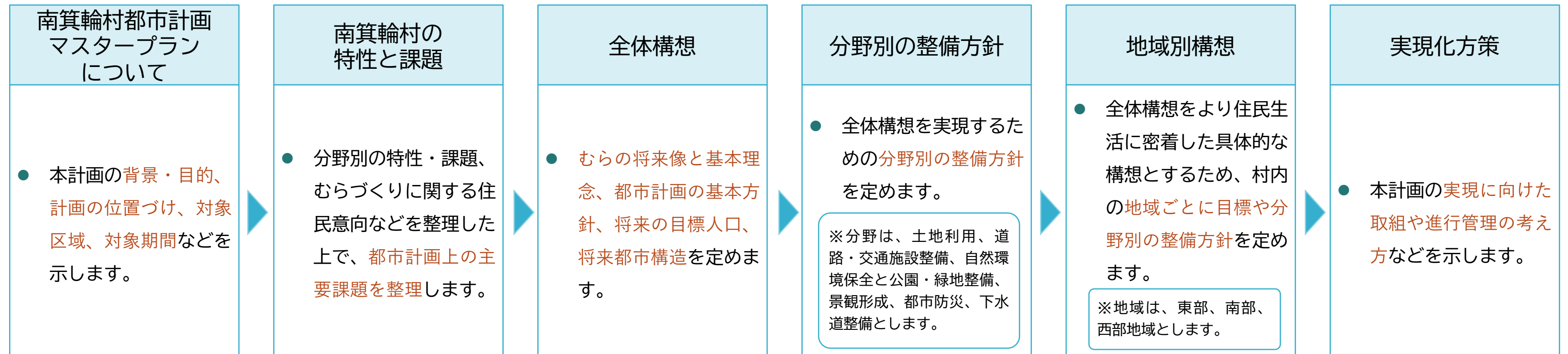


図 計画の構成

2. 南箕輪村の特性と課題

都市計画上の主要課題 土地利用

■ 無秩序な市街地の拡大抑制と優良農地の保全

- ・用途地域指定区域外での農地転用が多く、その大半が住宅用地への転用

→無秩序な市街地の拡大抑制と計画的な土地利用誘導による優良農地の保全が求められます。

■ 計画的な住宅立地の誘導

- ・用途地域指定区域外での新築が多い傾向

→人口動向を踏まえた計画的な住宅立地の誘導による良好な住宅環境の形成が求められます。

■ 空家等の適切な管理・利活用

- ・将来的な人口減少により空家の増加が懸念

→空家の適切な管理や利活用が求められます。

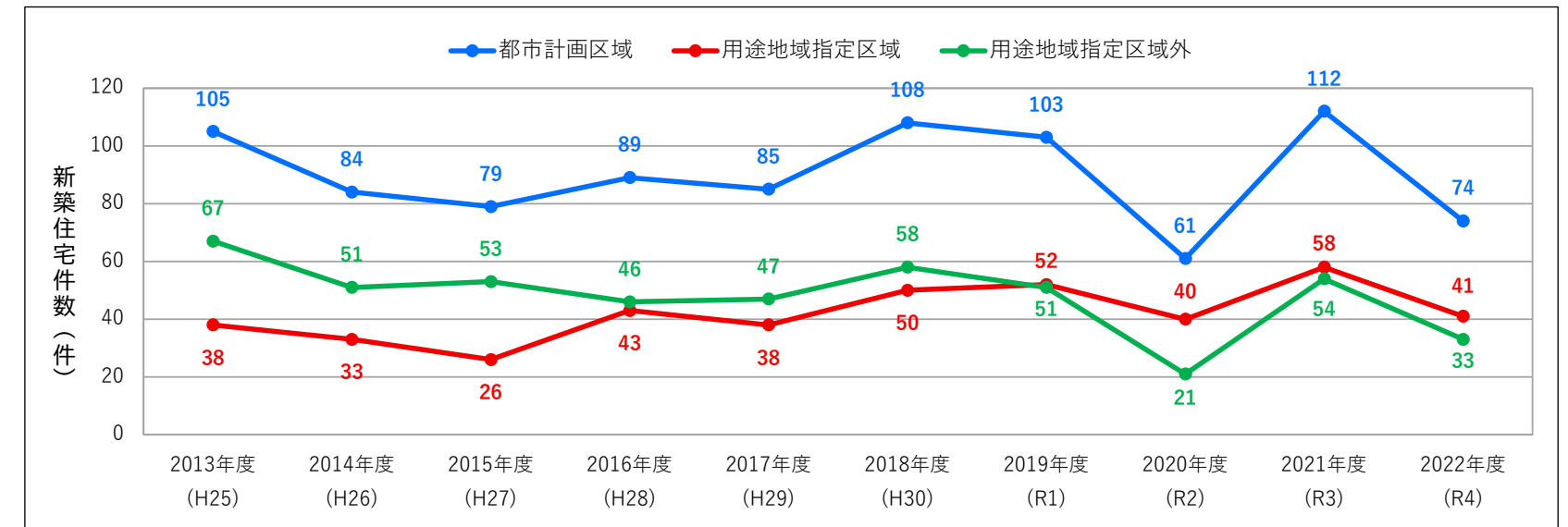


図 新築住宅件数の推移

出典：南箕輪村「平成30年度・令和5年度都市計画基礎調査」再編加工

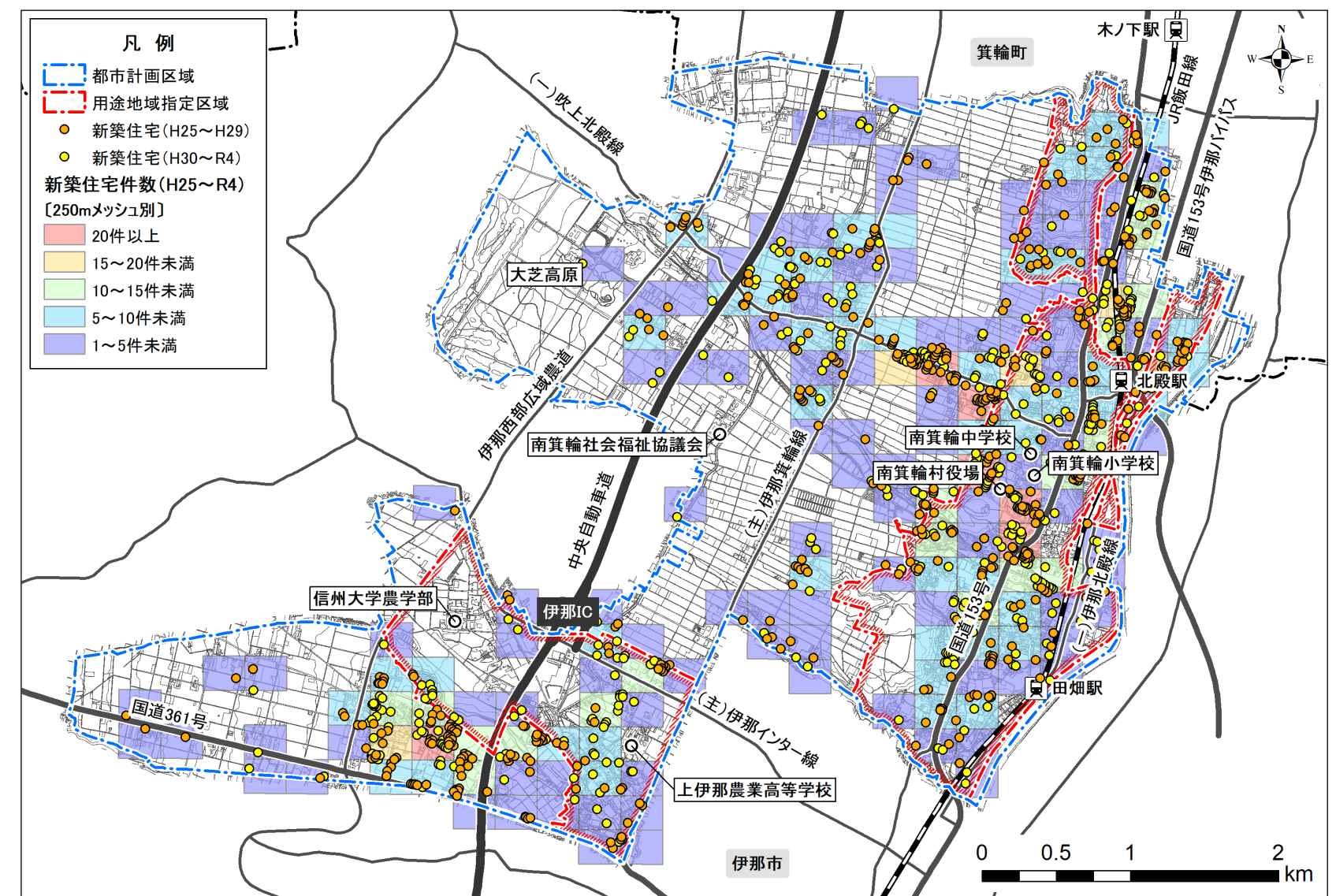


図 新築住宅の分布

出典：南箕輪村「平成30年度・令和5年度都市計画基礎調査」再編加工

都市計画上の主要課題 土地利用

■ 商業・サービス機能の充実と利便性向上

・ 村民アンケートでは食料品や日用品の買い物の行きやすさにおいて不満が高く、中学生アンケートでは娯楽・商業施設の不足が指摘されている

→ 商業・サービス機能の充実と利便性向上が求められます。

■ 工業団地の機能維持・強化と企業誘致の推進

→ 若者や子育て世帯の定着と多様な産業・雇用機会の創出を図るため、工業団地の機能維持・強化と企業誘致が求められます。

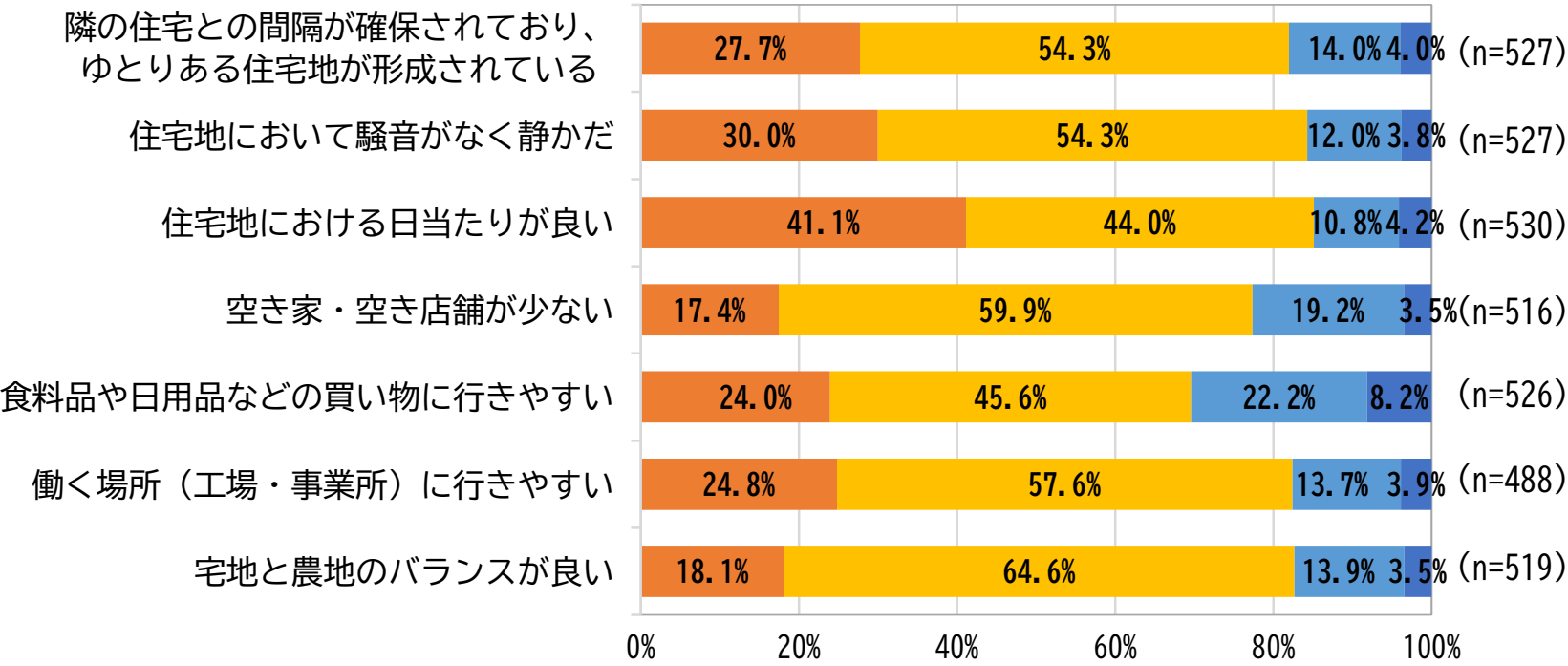


図 村民アンケートにおける分野別の満足度（土地利用）

娯楽・商業施設等の不足	● ゲームセンター、ショッピングモールといった若者が身近に利用できる娯楽施設や大型商業施設が少ない ● 身近に気軽に利用できる公園が少ない ● 買い物やレジャーのために村外に出る必要があり、村内での選択肢が少ない
交通利便性と安全性	● バスや電車などの公共交通機関が少なく、交通の便が悪い ● 通学路には道が狭い場所や、街灯が少なく夜間に暗くなる場所がある
施設利用料金	● 体育館などの公共施設の利用料金が低い
環境問題	● 工場などを整備する際に自然環境の保全に配慮してほしい

表 村民アンケートにおける南箕輪村の課題・改善点

都市計画上の主要課題 道路・交通施設整備

■ 東西方向の交通インフラの強化

- ・ 村内の幹線道路網は南北方向が充実しているのに対して、東西方向がやや脆弱
- ・ 村民アンケートでは、道路・交通に関して全体的に満足度が低い傾向

→ 東西方向の交通インフラの強化が求められます。

■ 都市計画道路の見直し及び計画的整備の推進

- ・ 都市計画道路の改良率が県内平均を大きく下回っている

→ 整備率改善と道路ネットワークの機能強化に向けた都市計画道路の見直し及び計画的整備の推進が求められます。

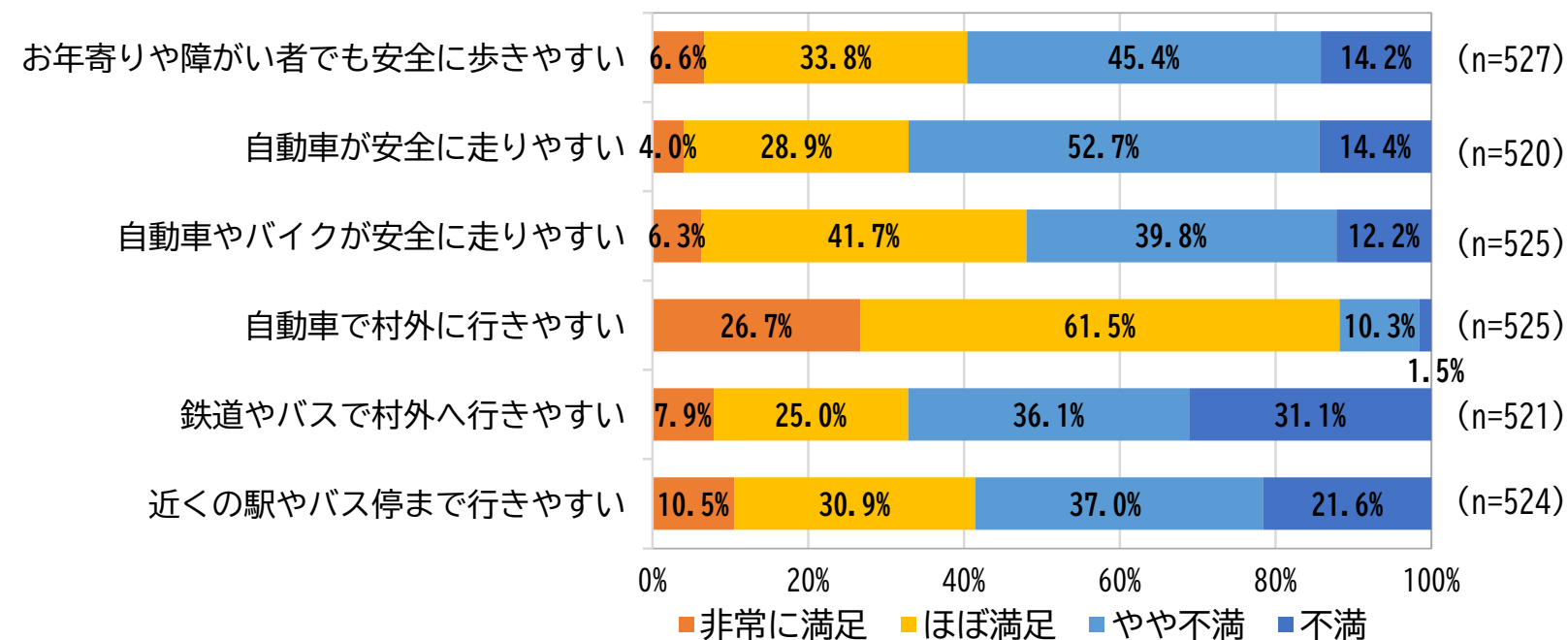


図 村民アンケートにおける道路・交通の満足度

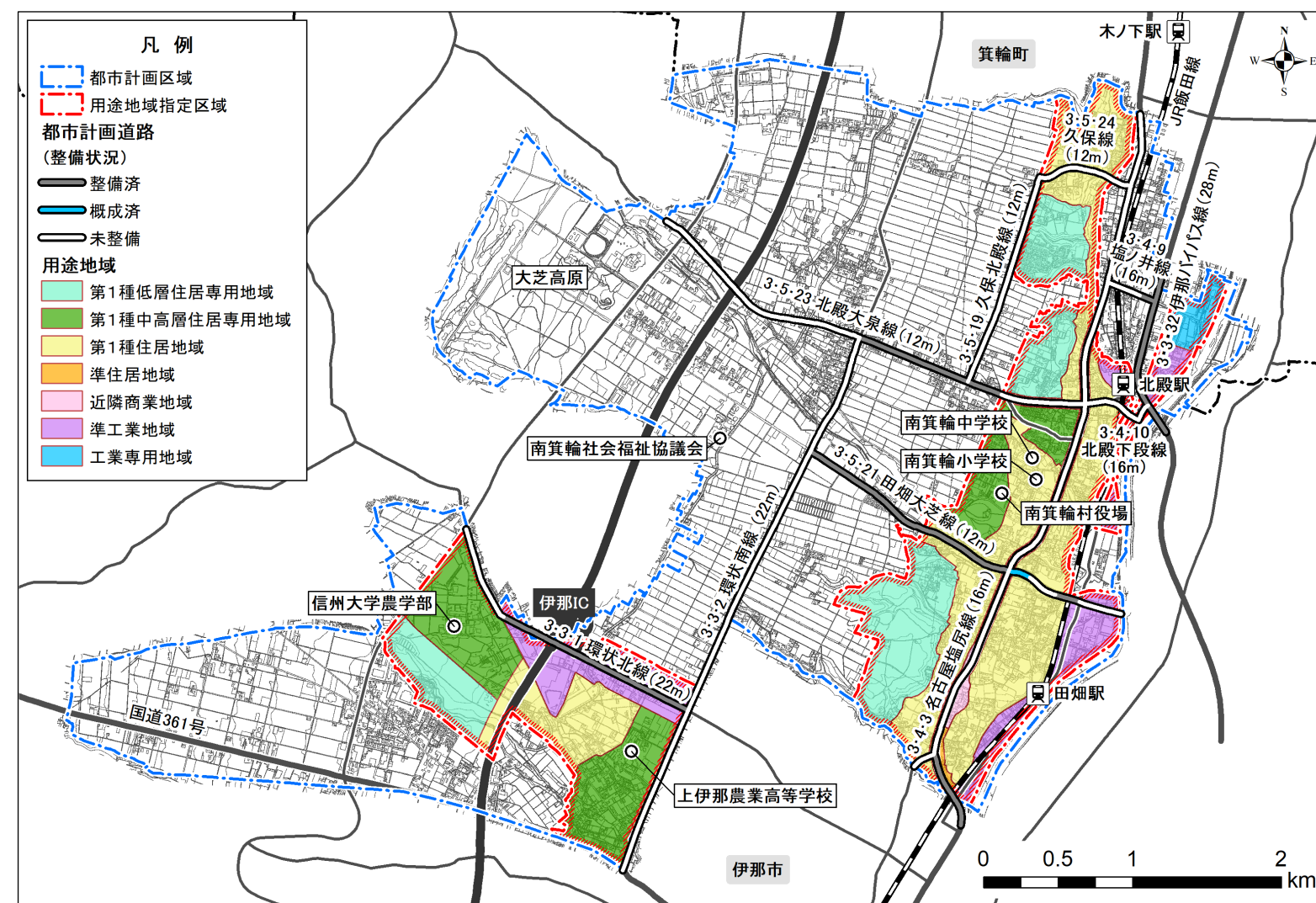


図 都市計画道路の整備状況

出典：南箕輪村「令和5年度都市計画基礎調査」再編加工

都市計画上の主要課題 道路・交通施設整備

■ 幹線道路・生活道路・通学路の安全確保に向けた整備の推進

- ・ 幹線道路の交差点周辺における交通事故が多く、生活道路でも事故の発生がみられる
- ・ 住民アンケートでは、歩行者が通行しやすい道路整備や住宅地の生活道路の整備、通学路の安全確保などが重視されている傾向

→ 幹線道路・生活道路・通学路の安全確保に向けた整備が求められます。

■ 公共交通の利用促進及び利便性向上

- ・ JR飯田線及びバスの利用者数は減少傾向
- ・ 村民アンケートでは、公共交通による移動に関して満足度が低い傾向

→ 交通結節点の機能強化や鉄道とバスの連携など、公共交通の利用促進及び利便性向上に向けた取組が求められます。

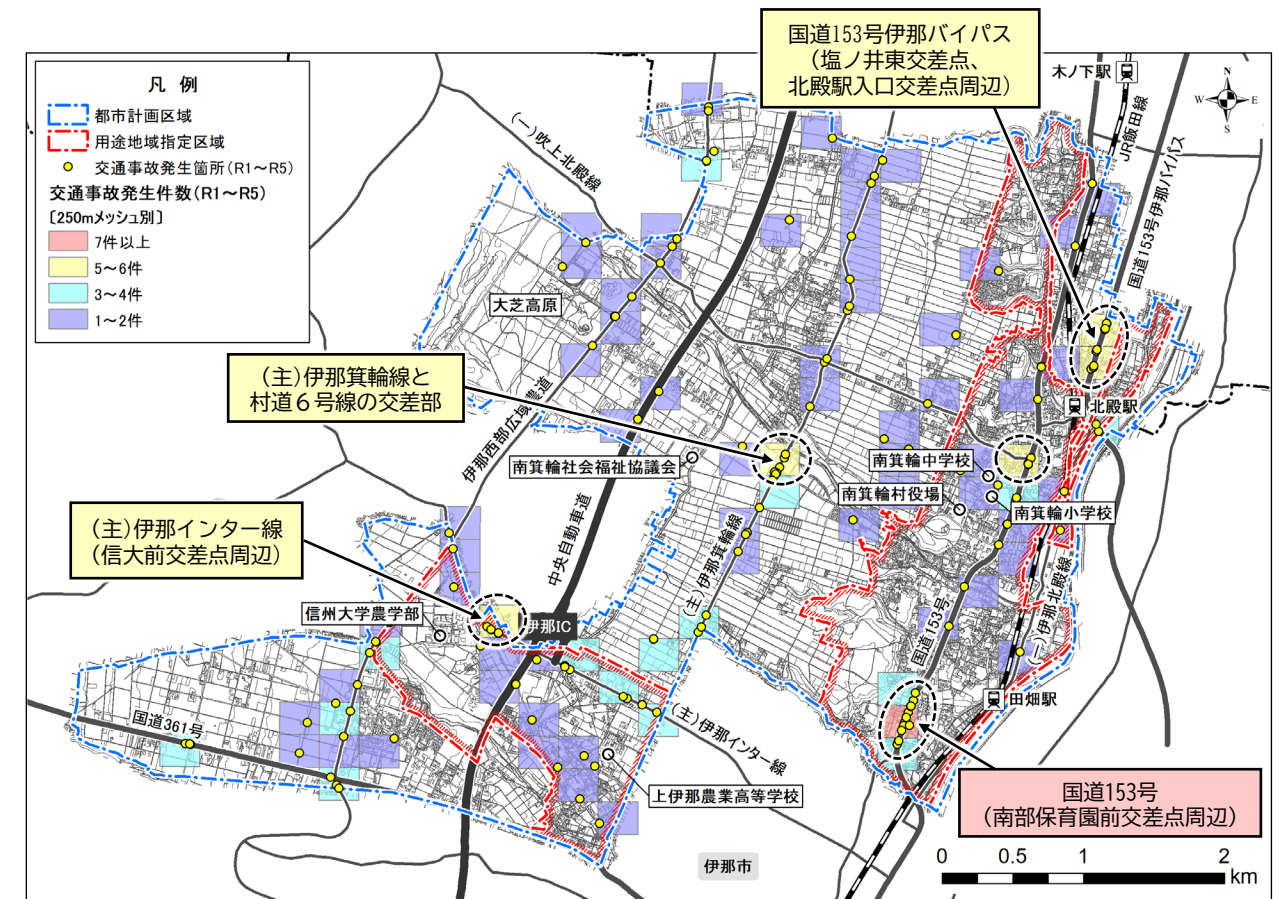


図 交通事故発生箇所の分布

出典：長野県「信州くらしのマップ(交通事故情報)」再編加工

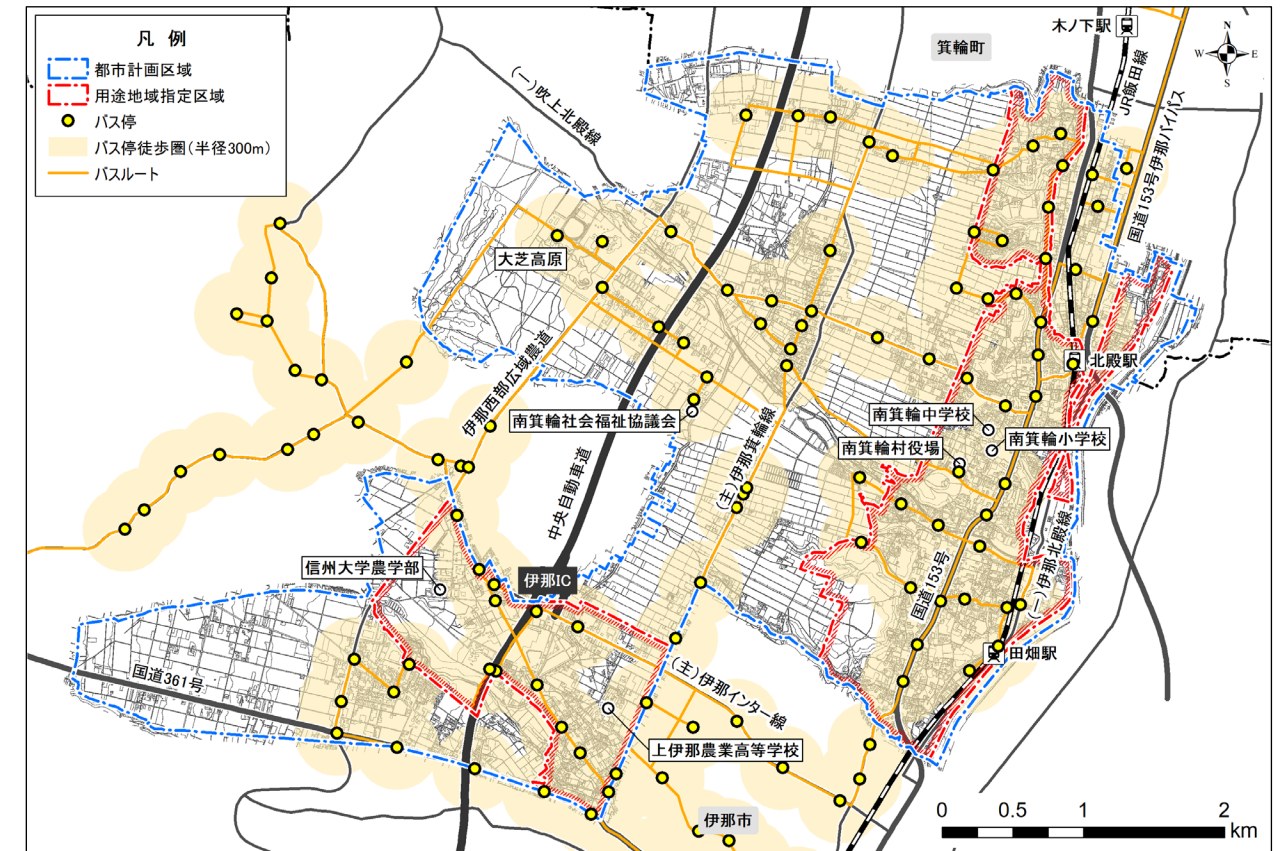


図 公共交通（バス）の状況

出典：南箕輪村「路線図(伊那本線、西箕輪線、まっくんバス)」再編加工

都市計画上の主要課題
自然環境保全、
公園・緑地整備

■ 自然環境の保全と観光・交流の促進に向けた利活用の推進

- ・住民アンケートでは、森林や水辺などの豊かな自然環境の保全が重視されている
 - ・大芝高原などの森林区域はレクリエーションや自然観察の場としての役割を果たしている。
- 自然環境の保全と観光・交流・レクリエーションの場としての利活用の推進が求められます。

■ 身近な公園・緑地の適正配置

- ・住民アンケートでは、公園やスポーツ施設、子どもの遊び場が身近にないことに不満を感じている割合が高い傾向
- 将来の人口動向などを踏まえながら、身近な公園・緑地を適正に配置していくことが求められます。

■ 大芝公園の機能向上

- ・村民アンケートや中学生アンケートでは、大芝公園の施設整備の推進が重視されている
- 若い世代も気軽に利用できる公園の整備が求められており、大芝公園の機能向上などが求められる。

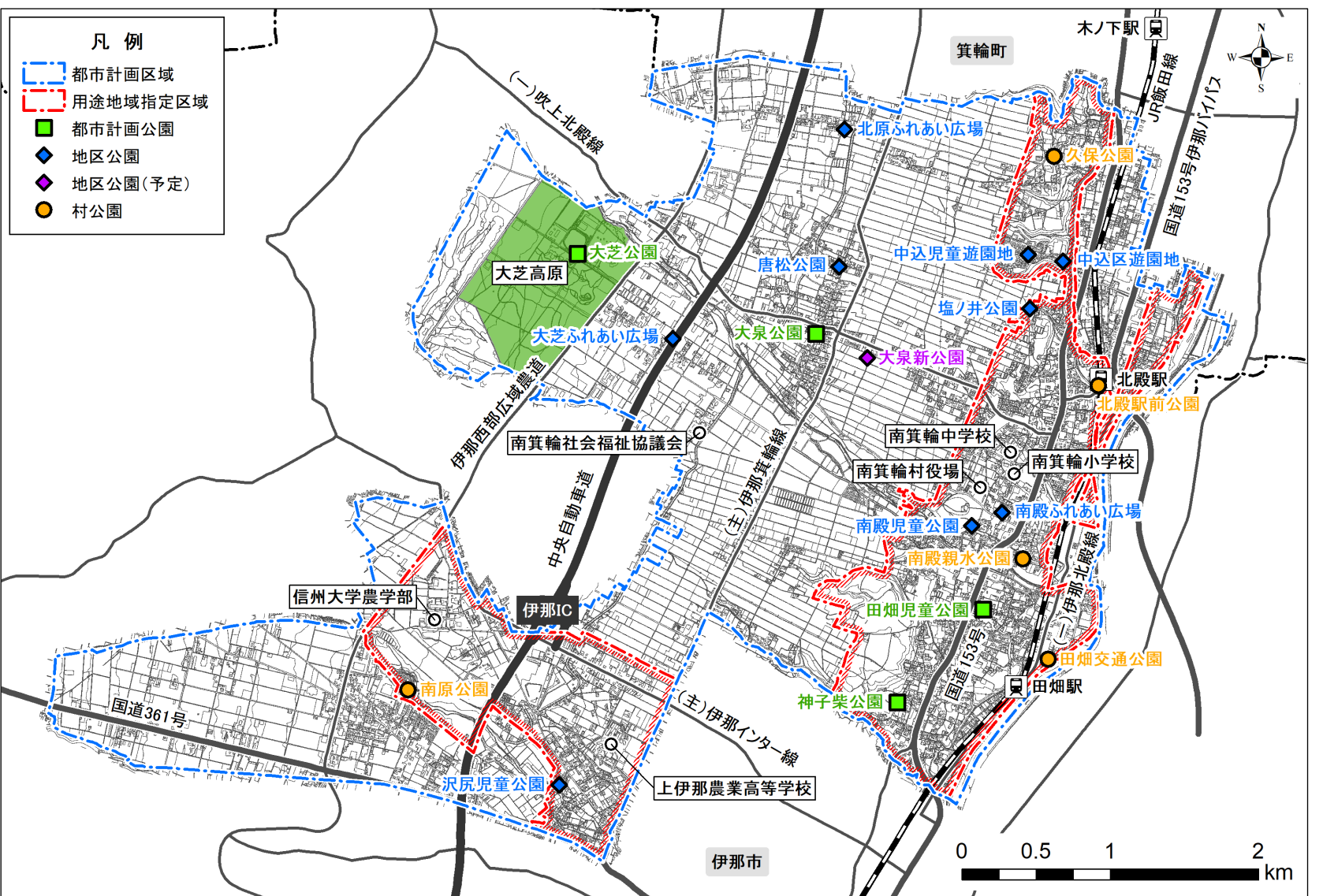


図 公園の整備状況
出典：南箕輪村「南箕輪村内の公園位置図、公園一覧」再編加工

都市計画上の主要課題 景観形成

■ 伊那谷の雄大な美しい景観の保全

- ・ 村民アンケートや中学生アンケートでは、大芝高原や神社の森など身近な森林景観や、中央アルプスや南アルプスなどの山岳景観、扇状地の田園景観などの保全が重視

→伊那谷の雄大な美しい景観を保全していくことが求められます。

■ 幹線道路沿道における良好な景観の形成

- ・ 村民アンケートでは、村の景観に関して全体的に満足度が高い傾向
- ・ 道路沿道の街並み景観に関して満足度が比較的低い傾向

→幹線道路沿道などにおいて良好な景観を形成していくことが求められます。

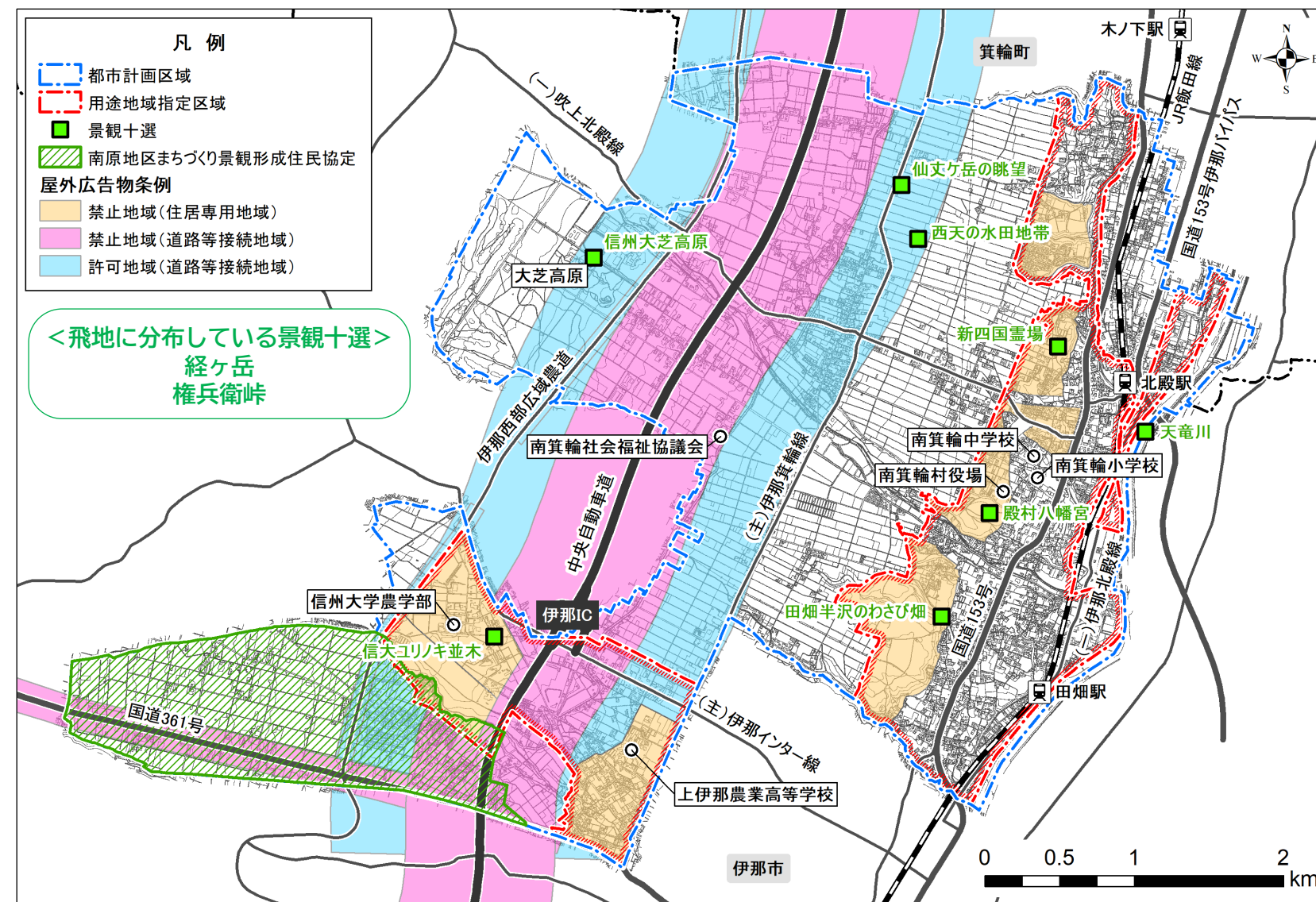


図 景観に関する法規制と南箕輪村景観十選の分布

出典：長野県「信州くらしのマップ」再編加工

都市計画上の主要課題 都市防災

■ 土砂災害・洪水災害リスクへの対応

- ・用途地域指定区域内の河岸段丘や斜面地で土砂災害警戒区域が指定されており、天竜川、大泉川、大清水川沿岸では広範囲に洪水浸水想定区域が指定されている
 - ・村民アンケートでは、土砂災害や洪水災害への対策に関して満足度が高い傾向
- 土砂災害・洪水災害に対する防災・減災対策を引き続き、推進していくことが求められます。

■ 大規模地震災害リスクへの対応

- ・本村は南海トラフ地震防災対策推進地域に指定されており、伊那谷活断層による地震も懸念されている
 - ・村民アンケートでは、地震への対策に関して満足度が低い傾向
- 大規模地震災害に対する防災・減災対策の一層の推進が求められます。

■ 避難所や避難場所の維持・確保及び防災拠点の機能強化

- 本村内に存在している災害リスクを踏まえ、各災害に対応した避難所や避難場所、福祉避難所を維持・確保していくことが求められます。
- 広域防災拠点としての役割を果たしている道の駅「大芝高原」の防災機能向上に向けた整備が求められます。

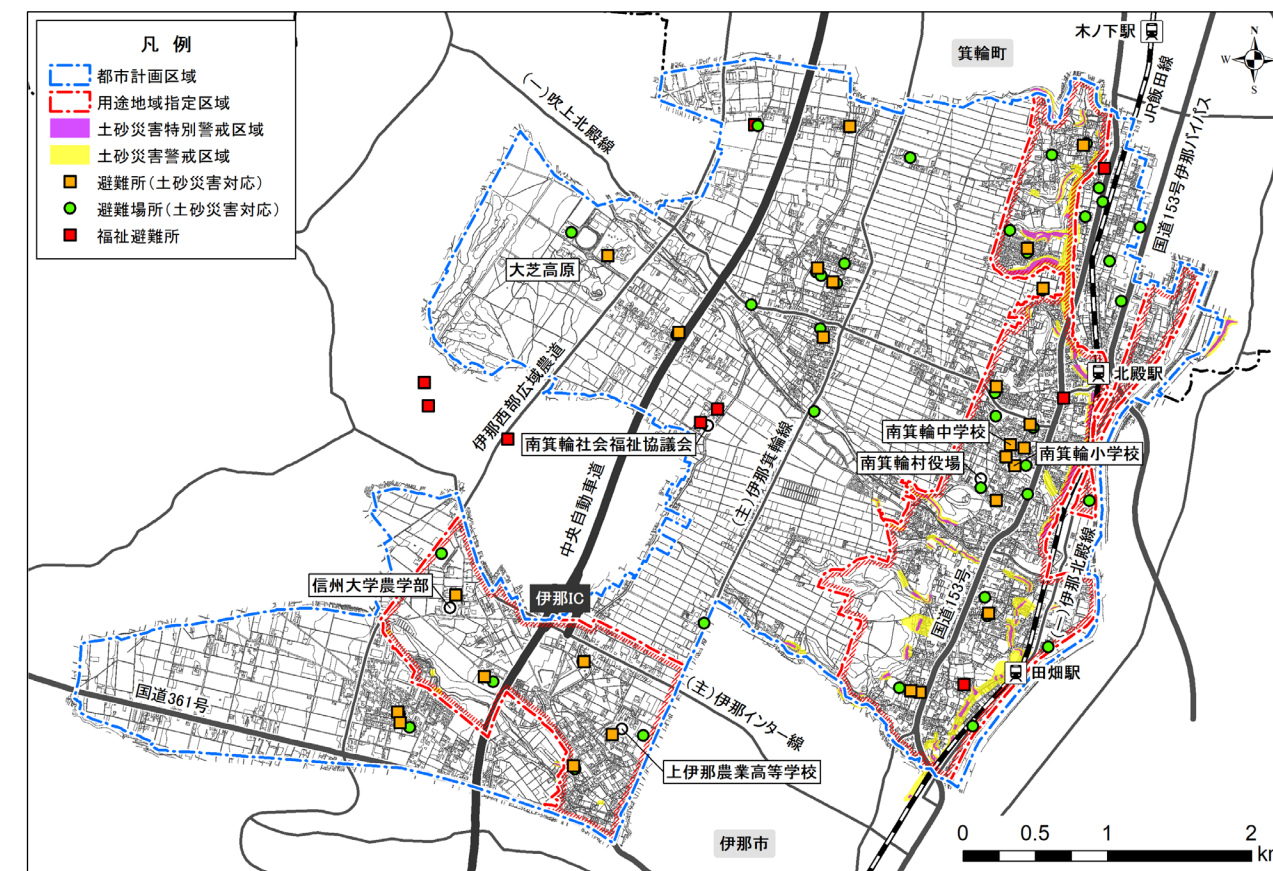


図 土砂災害警戒区域の状況

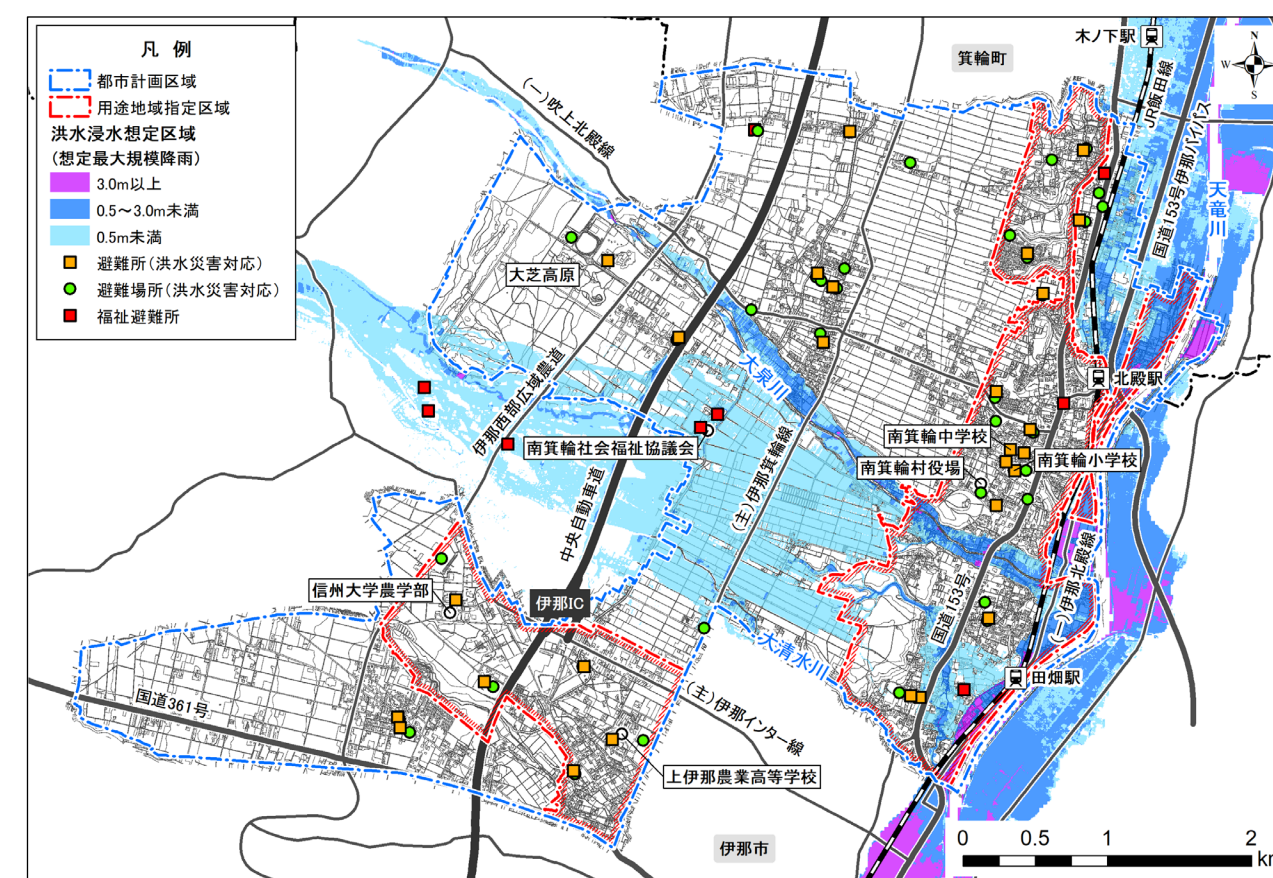


図 洪水浸水想定区域（想定最大規模降雨）の指定状況

出典：【ハザード情報、避難所・避難場所】南箕輪村「南箕輪村防災マップ」再編加工
【福祉避難所】長野県「福祉避難所設置状況一覧(令和6年3月31日現在)」再編加工

都市計画上の主要課題

下水道整備

■ 既存施設の維持管理と未整備区域への対応

- ・ 公共下水道（汚水）の整備は概ね完了している
- 今後は既存施設の適切な維持管理に加えて、公共下水道全体計画区域外の地域において、浄化槽の設置により生活排水を適切に処理していくことが求められます。

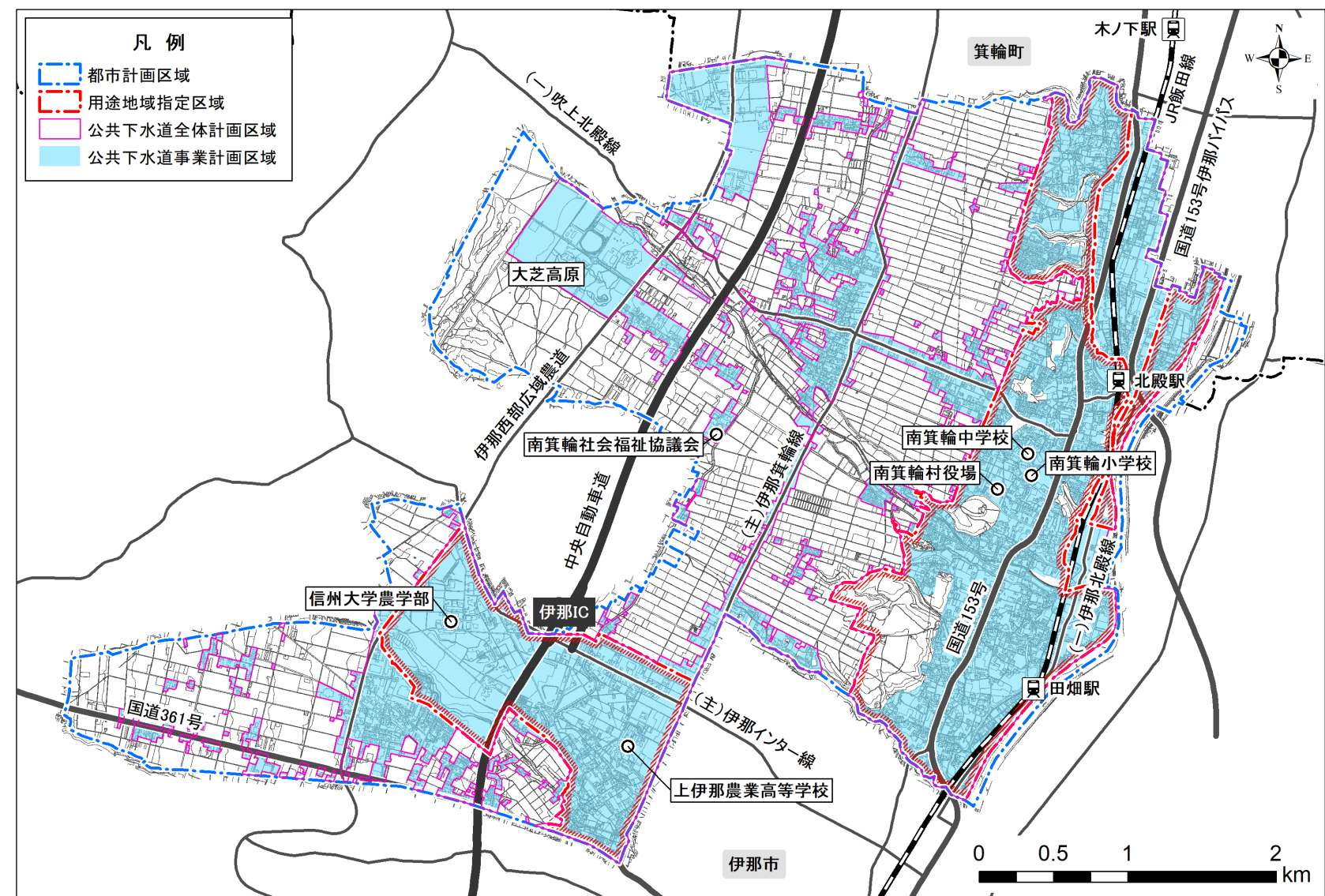


図 公共下水道全体計画区域、事業計画区域の状況

出典：南箕輪村「下水道計画一般図(汚水)」再編加工

3. 全体構想について

むらの将来像と基本理念

将 来 像

豊かな自然 つながり育み 夢かなう 南箕輪

～自然とともに 世代を超えて育む 持続可能な村づくり～

基 本 理 念

- 自然との調和を大切に、多様な人が共に生きる南箕輪村をめざします。
- 夢と希望を持ち続けられ、いきいきと暮らせるすてきな南箕輪村をめざします。
- 誰もが安全・安心の暮らしを実感できる南箕輪村をめざします。

都市計画の基本方針

基本方針 1

伊那谷の雄大な自然環境と共生するむらづくり

本村では、伊那谷の豊かな自然環境を地域の大切な資産として位置づけ、自然との調和を重視したむらづくりを進めています。

中央アルプスの山々や清流、森林、田園風景など、地域固有の自然環境を保全・活用しながら、自然景観や生態系の保全を図ります。

また、環境教育やエコツーリズムの推進を通じて、住民と来訪者が自然の価値を共有し、地域資源を活かした持続可能なむらづくりを推進します。

基本方針 2

快適に暮らせるコンパクトなむらづくり

将来的な人口減少・高齢化の進行が予測される中、生活に必要な機能を村民が利用しやすい場所に集約し、公共交通などでアクセスしやすいコンパクトなむらづくりを推進することで、持続可能で利便性の高い居住環境の形成を図ります。

また、伊那谷の河岸段丘の平坦部は開発しやすい地形であることを踏まえ、既存のインフラ基盤などを有効活用しながら、無秩序な市街地の拡大を抑制し、計画的な土地利用の誘導を図ります。

公共施設や商業施設、交通インフラを適切に配置し、子育て世代から高齢者まで、誰もが快適に暮らせるむらづくりを推進します。

基本方針 3

産業・観光を支える活力あるむらづくり

本村の基幹産業である農業や林業の振興に加え、地域資源を活かした観光の推進により、経済的な活力を生み出すむらづくりを進めるとともに、村内に整備された工業団地や産業用地を活用し、企業誘致を積極的に進めることで、雇用の創出と地域活力の向上を図ります。

また、自然・歴史・文化資源を活かした体験型観光や地域イベントの充実を図り、交流人口の拡大と地域ブランドの向上に努め、産業と観光の両面から地域の魅力を高めることで、活力あるむらづくりを推進します。

基本方針 4

災害に強い安全・安心なむらづくり

地震や豪雨、土砂災害などの自然災害に備えた防災・減災対策を強化し、住民の安全・安心を確保するむらづくりを推進します。

また、ハザードマップの更新や避難所の機能強化、地域防災訓練の実施など、災害時の対応力を高める取組を推進するとともに、インフラの耐震化や河川・避難路の整備、情報伝達体制の充実など、ハード・ソフト両面から災害に強いむらづくりを推進します。

将来都市構造

将来都市構造		目指すべき将来の都市の姿を概念的に表すもの
将来都市構造の構成	ゾーン	自然地形や土地利用形態等の特性に基づく地域のまとまりを「面」で概念的に表すもの
	拠点	特徴的な都市機能等が集積し、将来のむらづくりの核となる地区を「点」で概念的に表すもの
	軸	人の移動や交流の流れの方向を「線」で概念的に表すもの

■ 基本的な考え方

本村の将来都市構造は、南箕輪村第6次総合計画で定める土地利用構想や、上伊那圏域マスタープランで定める圏域構造等の上位計画の方針と整合を図りながら、「ゾーン」、「拠点」、「軸」の3つの要素の位置づけ、役割を明確化して設定します。

ゾーンの設定方針

市街地ゾーン

設定方針	基本方針
暮らしを支える生活排水施設等が整備されている公共下水道事業計画区域のうち、以下の要件のいずれかに該当する範囲を「市街地ゾーン」として位置づけます。 ● 用途地域が指定されている地域 ● 国道153号沿道の商業・業務施設が集積する地域（用途地域無指定） ● 工業団地として整備された地域（用途地域無指定）	既成市街地である住宅地、工業地、商業・業務地などで構成するゾーンとして、適正な土地利用の維持・誘導を図ります。

農業ゾーン

設定方針	基本方針
農業振興地域のうち「緑住共生ゾーン」を除く範囲を「農業ゾーン」として位置づけます。 南箕輪村地域計画の対象となる農用地等の区域は概ねこのゾーンに含まれます。 ● 農業振興地域のうち「緑住共生ゾーン」を除く農業地域	農業生産を支える優良農地などで構成するゾーンとして、保全・利活用を図るとともに、田園風景などの自然景観の保全・形成を図ります。

緑住共生ゾーン

設定方針	基本方針
用途地域が指定されていない（用途地域無指定）地域かつ農業振興地域に該当する範囲のうち、以下の要件に該当する範囲を「緑住共生ゾーン」として位置づけます。 ● 暮らしを支える生活排水施設等が整備されている公共下水道事業計画区域 ● 既に住宅等が集積している幹線道路沿道や既存集落地域	周辺の自然環境や営農環境の調和を図りながら、既存集落地域を中心とした住環境の維持を図ります。 また、新規就農者や移住者等の居住の受け皿となるゾーンになります。

森林ゾーン

設定方針	基本方針
以下の要件のいずれかに該当する範囲を「森林ゾーン」として位置づけます。 ● 南箕輪村森林整備計画の対象となる森林区域 ● 南箕輪村景観計画で定める景観計画区域のうち、山林・森林地域に該当する地域	豊かな自然環境を有する保安林、普通林、河岸段丘林などで構成するゾーンとして、保全を図るとともに、観光やレクリエーション等での利活用を図ります。

拠点の設定方針

交通結節拠点	
設定方針	基本方針
以下の施設周辺を「交通結節拠点」として位置づけます。 ● 高速交通網による玄関口 ・中央自動車道伊那IC ● 鉄道とバス路線の結節点 ・北殿駅 ● バス路線（広域系路線・地域内路線）の結節点 ・南箕輪村役場	広域的な道路交通や公共交通の結節点として、アクセス性や利便性の向上を図ります。

交流・防災拠点	
設定方針	基本方針
以下の施設周辺を「交流・防災拠点」として位置づけます。 ● 大芝高原	観光やレクリエーション、交流を支える施設が集積し、災害時に広域防災拠点としての役割を果たす地区として、機能の維持・充実を図ります。

行政・教育拠点	
設定方針	基本方針
以下の施設周辺を「行政・教育拠点」として位置づけます。 ● 南箕輪村役場 ● 南箕輪村村民センター ● 南箕輪村図書館 ● 南箕輪村中学校	行政サービスや学校教育を担う施設が集積する地区として、機能の維持・充実を図ります。

教育拠点	
設定方針	基本方針
以下の施設周辺を「教育拠点」として位置づけます。 ● 信州大学伊那キャンパス（農学部） ● 上伊那農業高等学校	専門的な教育を担う施設が集積する地区として、機能の維持・充実を図ります。

福祉拠点	
設定方針	基本方針
以下の施設周辺を「福祉拠点」として位置づけます。 ● 南箕輪村社会福祉協議会	福祉を支える施設が集積し、災害時に福祉避難所としての役割を果たす地区として、機能の維持・充実を図ります。

軸の設定方針

広域連携軸	
設定方針	基本方針
以下の鉄道、道路を「広域連携軸」として位置づけます。 ● 鉄道 ・ JR飯田線 ● 道路 ・ 中央自動車道※ ・ 国道153号※ ・ 国道153号伊那バイパス※ ※長野県広域道路交通計画（令和3年3月）、広域道路ネットワーク計画で「高規格道路」、「一般広域道路」に位置づけられた路線	県外を含む圏域外や周辺市町村と本村を結ぶ広域の交通を担う軸として、機能の維持・強化を図ります

都市間連携軸	
設定方針	基本方針
以下の道路を「都市間連携軸」として位置づけます。 ● 国道361号※ ● (主)伊那インター線※ ● (主)伊那箕輪線 ● 伊那西部広域農道 ※長野県広域道路交通計画（令和3年3月）、広域道路ネットワーク計画で「その他主要な道路」に位置づけられた路線	広域連携軸を補完し、周辺市町村と本村を結ぶ交通を担う軸として、機能の維持・強化を図ります。

都市内連携軸	
設定方針	基本方針
以下の道路を「都市内連携軸」として位置づけます。 ● (一)伊那北殿線 ● (一)吹上北殿線 ● 村道6号線	都市間連携軸を補完し、村内の主要拠点間を結ぶ交通を担う軸として、機能の維持・強化を図ります。

将来都市構造の設定

【ゾーン】

- 市街地ゾーン
- 緑住共生ゾーン
- 農業ゾーン
- 森林ゾーン

【拠点】

- 交通結節拠点
- 交流・防災拠点
- 行政・教育拠点
- 教育拠点
- 福祉拠点

【軸】

- 広域連携軸
- 都市間連携軸
- 都市内連携軸

- 都市計画区域
- 鉄道駅
- 鉄道路線
- 河川

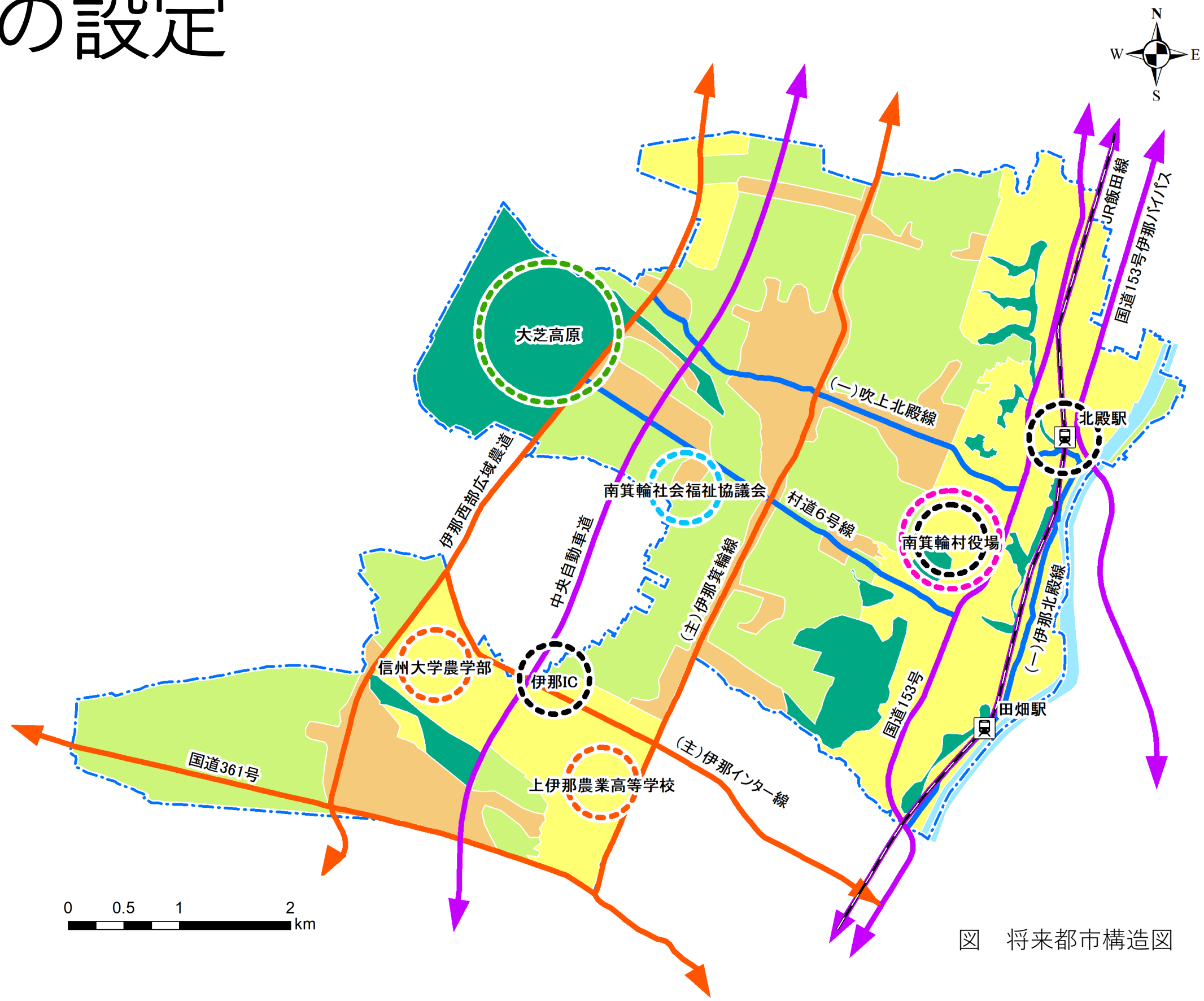


図 将来都市構造図

4. 地域別ワークショップの結果について

地域別ワークショップの実施概要

■ 東部地域

開催日時：令和7年5月23日(金) 18:30～20:30

開催場所：役場2階講堂

参加人数：25名



■ 南部地域

開催日時：令和7年5月22日(木) 18:30～20:30

開催場所：南原コミュニティセンター

参加人数：10名



■ 西部地域

開催日時：令和7年5月19日(月) 18:30～20:30

開催場所：森の学び舎(防災研修センター)

参加人数：10名

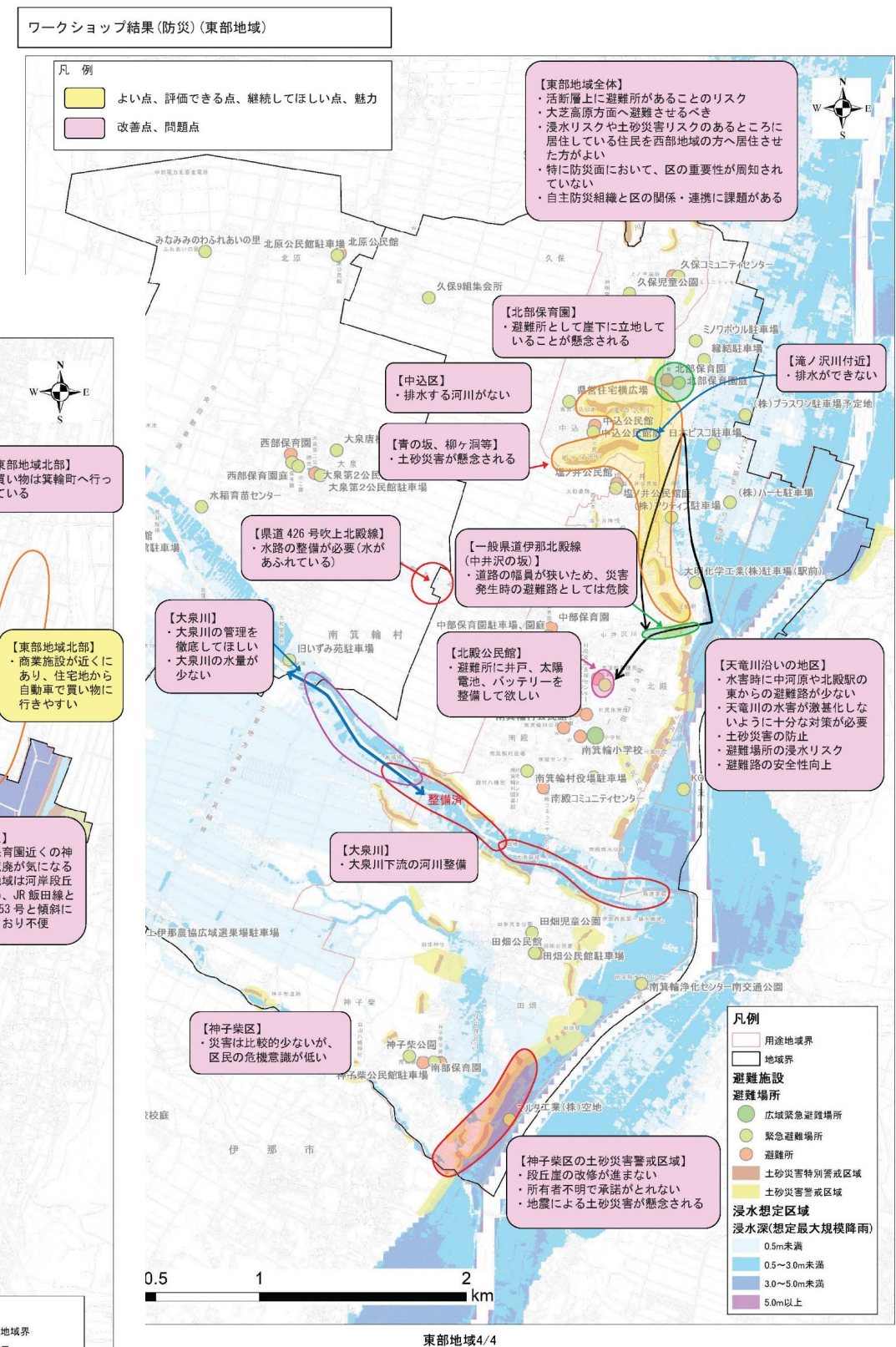
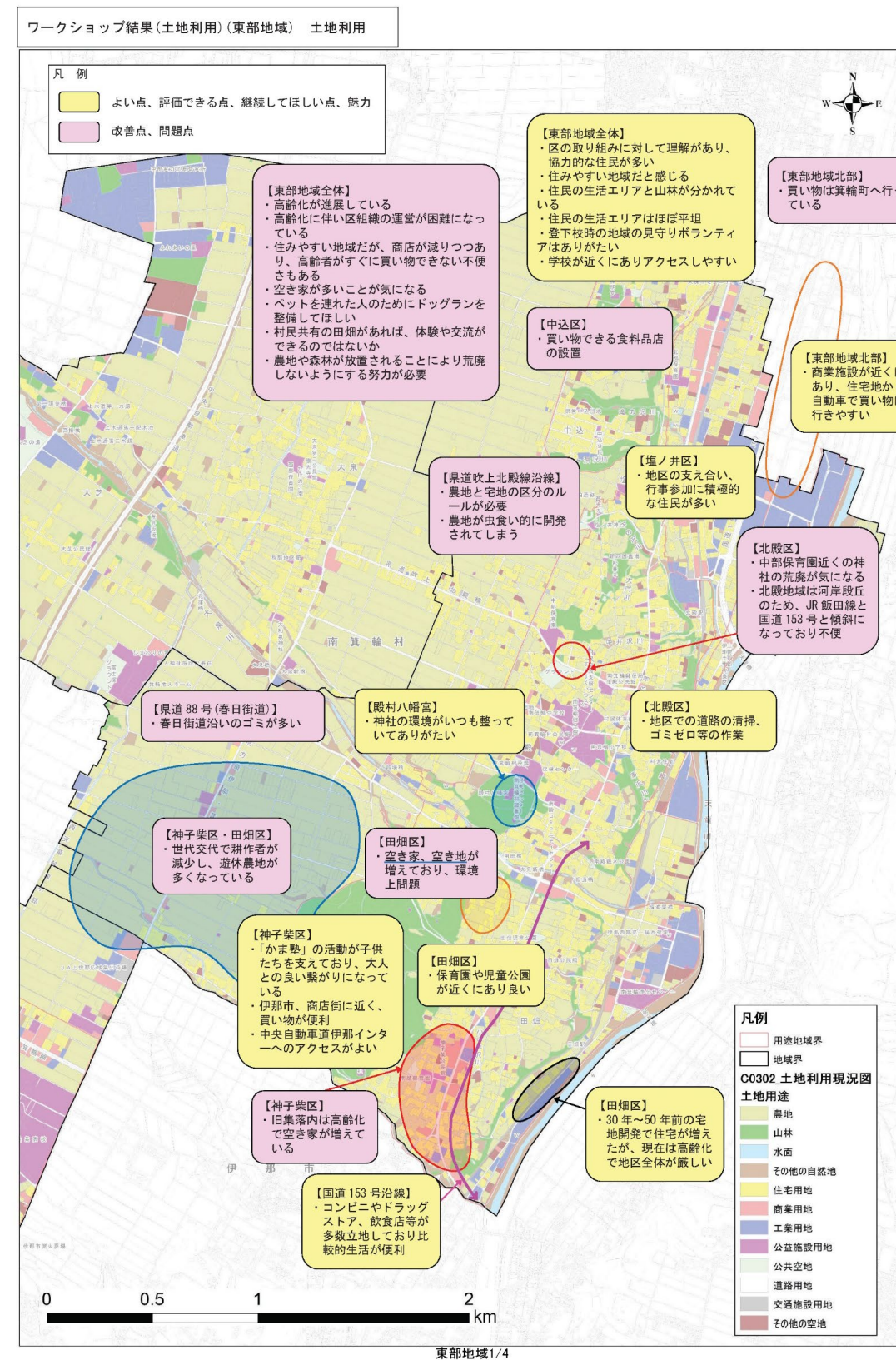
地域別ワークショップの結果 東部地域の主な意見内容

■ 評価点(良い点)

- ・ 学校が近くにありアクセスしやすい
- ・ 商業施設が近くにあり、住宅地から自動車
で買い物に行きやすい
- ・ 田園風景などの景観、南アルプス・中央アル
プスの眺望は地域の財産

■ 課題(問題点)

- ・伊那市や箕輪町等との連携が必要
- ・区の役員のなり手不足や、高齢化の進展に伴う区組織の運営が困難になっていることが懸念
- ・交通渋滞が問題となっており、特に帰宅時間帯や朝・夕方の春日街道の渋滞対策が求められている
- ・浸水リスクや土砂災害リスクのあるところに用途地域が指定されている点が懸念



地域別ワークショップの結果

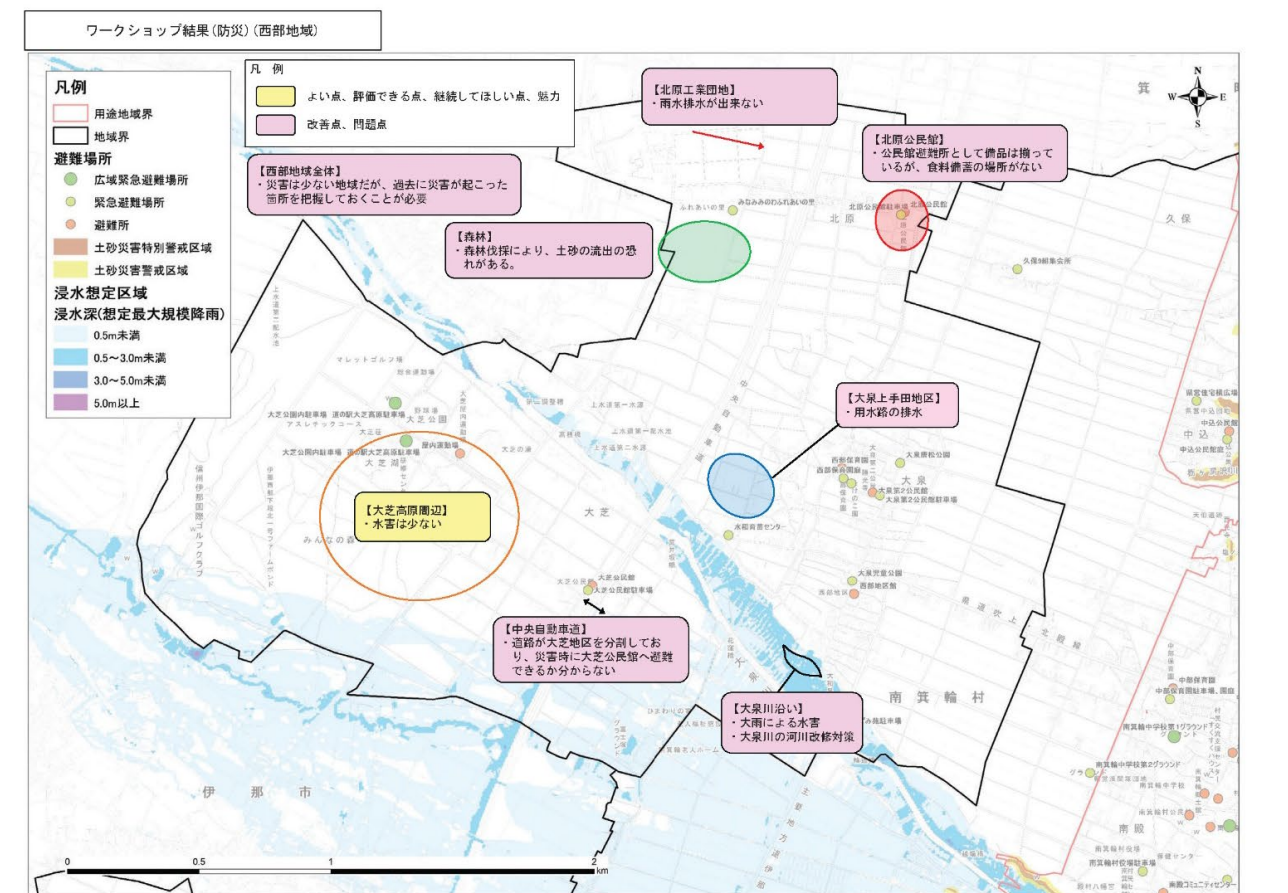
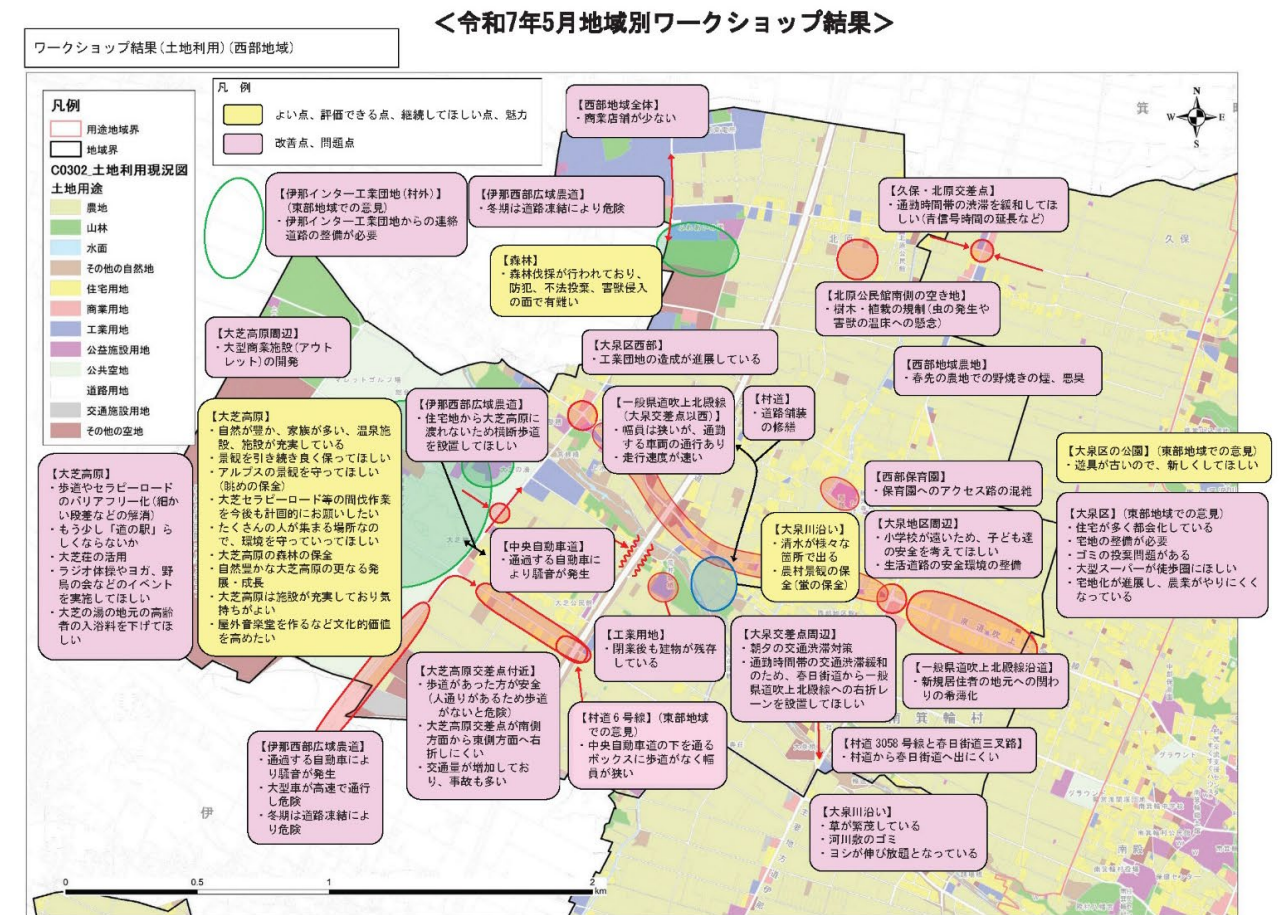
西部地域の主な意見内容

■ 評価点(良い点)

- ・ 田園景観がよい
- ・ 大芝高原は自然が豊かで、温泉施設や充実した施設がある
- ・ 中央アルプス、南アルプスの眺望景観がよい

■ 課題(問題点)

- ・ 自動車がないと買い物ができない
- ・ 中央自動車道や伊那西部広域農道を通過する自動車による騒音
- ・ 人口規模に対して道路が狭い
- ・ 伊那西部広域農道では大型車が高速で通行し危険
- ・ 大泉川沿いの大雨による水害への対策や大泉川の河川改修対策が必要



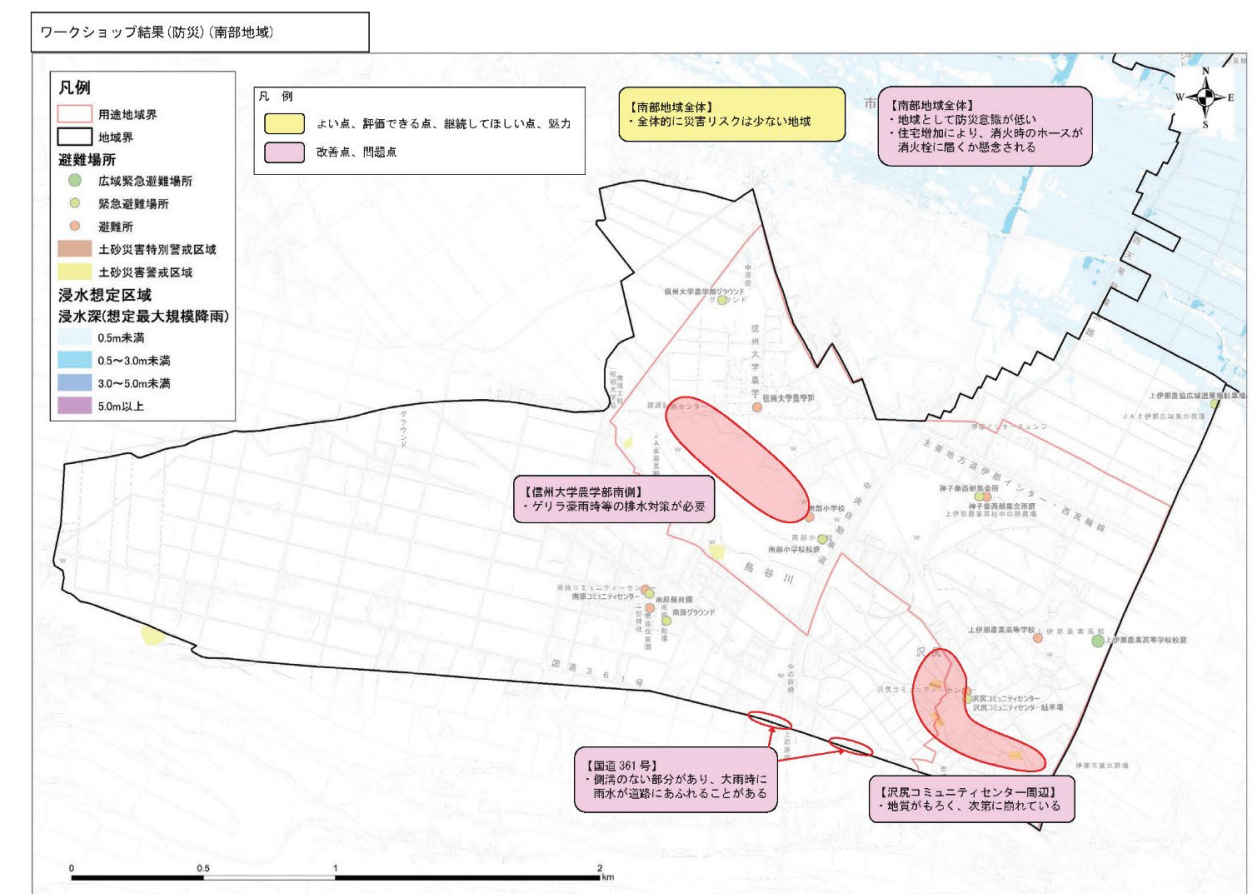
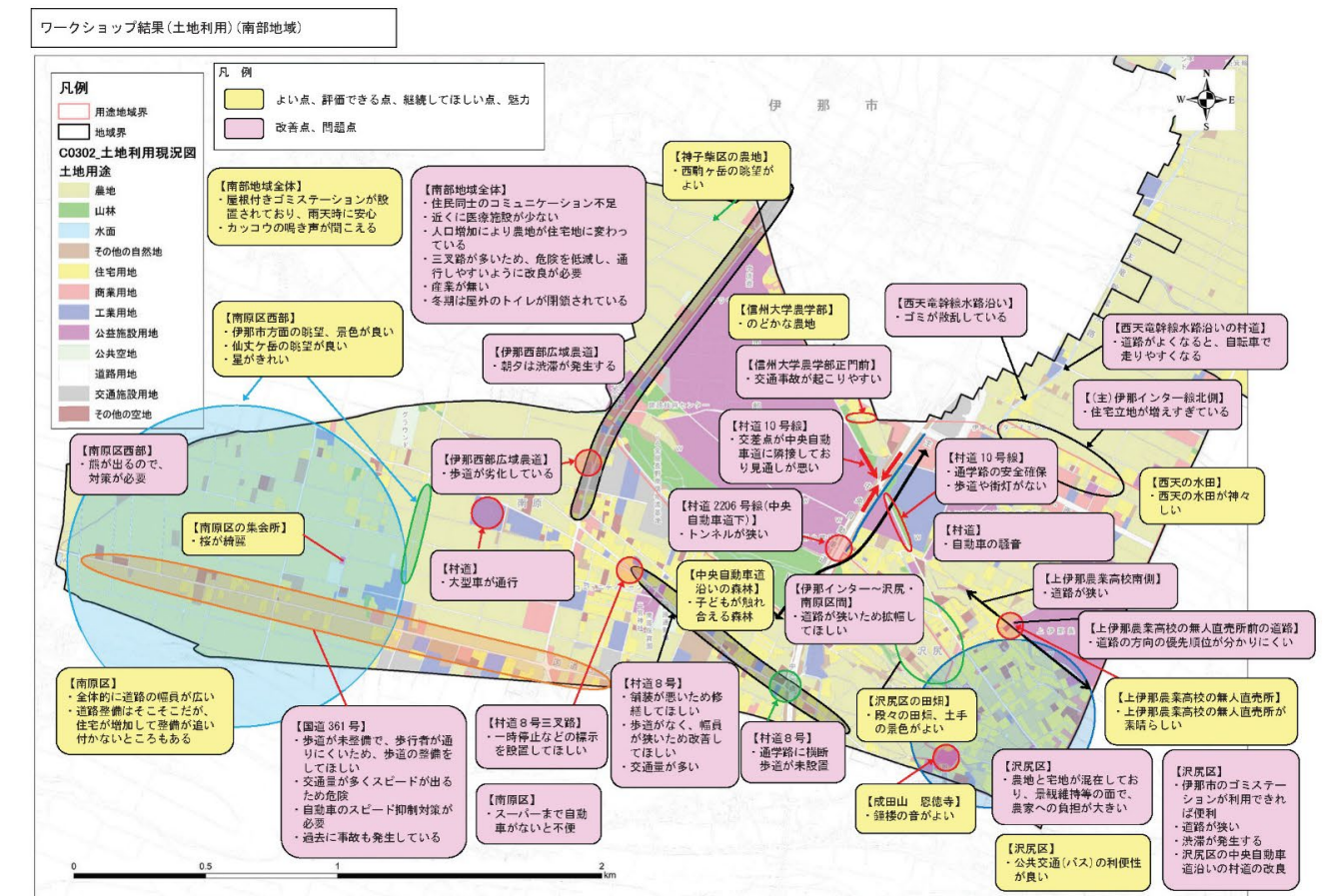
地域別ワークショップの結果 南部地域の主な意見内容

■ 評価点(良い点)

- ・公共交通（バス）の利便性が良い
- ・伊那市方面の見晴らしがよく、自然環境が良い
- ・全体的に災害リスクは少ない地域

■ 課題(問題点)

- ・ 近くに医療施設が少ない
- ・ スーパーまで車がないと不便
- ・ 人口増加により農地が住宅地になっている
- ・ 伊那西部広域農道では朝夕の渋滞が発生
- ・ 地域内の道路で歩道がない箇所があるため整備が必要



5. 今後の予定について

今後の予定

- パブリックコメント

令和8年1～2月(予定)

■ 都市計画マスタープラン改定版公表

令和8年3月(予定)

	令和 7 年（2025年）						令和 8 年（2026年）		
	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	1 月	2 月	3 月
都市計画審議会	●			●		●		●	計画改定版 公表予定
むらづくり委員会					●	●			
地域別住民説明会		今回 1			次回 2	計画素案			
パブリックコメント							意見募集		

以上で説明を終わります。



(参考)地域別ワークショップによる課題と分野別の整備方針

(参考)地域別ワークショップによる課題と分野別の整備方針(東部地域)

住民ワークショップ結果による課題		分野別の整備方針	
土地利用	社会環境・居住環境 ● 本村だけでは生活が成り立たないため、伊那市や箕輪町などの周辺自治体との連携の必要性が指摘されています。 ● 区の役員のなり手不足や、高齢化の進行に伴う区組織運営の困難化が課題です。 ● 高齢者などの買物難民への対応が求められています。 ● 空家の増加が懸念されており、空家の適正管理・活用が求められています。 ● 相続時の土地評価額が実態と乖離しており、田畑の相続税支払いが困難であるという問題が挙げられています。 農地 ● 耕作者の減少による遊休農地の増加や、農地・森林の放置による荒廃が懸念されており、農地の大規模化や虫食いの開発への対策が求められています。		土地利用 ● 拠点機能の連携による中核的な土地利用の形成 行政、教育、商業、産業など多様な機能が集積する特性を活かし、それぞれの機能が連携・補完しながら調和する土地利用を進め、中核的な拠点としての機能性と利便性を高める土地利用を推進します。 ● 都市機能と調和した良好な住環境の確保 都市的な利便性を享受しつつ、静穏性や快適性のある住環境を確保するため、優良農地の保全を図りながら、多様な世代が安心して暮らし続けられる定住環境の整備を推進します。 ● 公共施設の再編と未利用地の有効活用 空家や未利用地の利活用を図るとともに、老朽化した公共施設の再編・複合化を検討し、土地の有効活用と持続可能なコンパクトな住環境の形成を図ります。

(参考)地域別ワークショップによる課題と分野別の整備方針(東部地域)

住民ワークショップ結果による課題		分野別の整備方針	
道路・交通施設整備	道路網 ● 緊急車両の通行が困難な幅員が狭い道路が多いこと、道路が複雑で分かりにくいこと、東西を結ぶ主要道路の不足が指摘されています。また、河岸段丘上の上下を結ぶ道路整備も必要とされています。 ● 交通量が多いにも関わらず歩道が未整備で危険な箇所が多く、駅周辺や公共施設へのアクセス道路の改善が求められています。 ● 未整備となっている都市計画道路に関して、非現実的な計画が残存していることについて問題視されています。 交通利便性・安全性 ● 国道153号の主要交差点（塩ノ井、北殿など）において右折レーンなどの付加車線がないため、交通の円滑な流れを妨げていることが問題視されています。 ● 通学路の安全性（街灯が少ない、歩道がない、車両の速度超過など）が懸念されており、安全確保に向けた対応が求められています。 ● 高齢者の交通手段や高校生の交通の便の悪さといった公共交通の課題があり、改善が求められています。 ● 明神橋の片側通行（一方通行規制）による不便さが指摘されています。 渋滞対策 ● 国道153号や(主)伊那箕輪線の主要交差点において、朝夕に渋滞が発生しており、対策が求められています。		道路・交通施設整備 ● 幹線道路の整備による広域的な交通機能の強化 国道153号や(主)伊那箕輪線をはじめとした主要幹線道路の交差点改良などを進め、広域道路網との接続性を高め、中核施設にふさわしい交通機能の強化を図ります。 ● 北殿駅周辺の交通拠点機能の向上 北殿駅及び周辺の交通結節点整備や待合スペースの改善などを進め、鉄道・バス間の乗り換え利便性の向上を通じて、公共交通の利用促進を図ります。 ● 通学・生活動線に配慮した歩行空間の整備 通学路や生活道路において、歩道の整備や視認性向上、自転車の安全走行空間の確保を進め、安全で快適な移動環境の形成を図ります。

(参考)地域別ワークショップによる課題と分野別の整備方針(東部地域)

住民ワークショップ結果による課題		分野別の整備方針	
自然環境保全と公園・緑地整備	水辺・森林・河川環境 - 河川沿いの立ち木・雑草の繁茂やゴミの流入、河岸段丘の竹藪などについて、適正な管理や整備が必要とされています。 - 水場や湧き水などのマップを作成し、保全・活用すべき水源の情報を発信する必要性が指摘されています。 公園・緑地 - 公園の遊具の老朽化への対応や利用促進が課題であり、特に防災面での公園の不足も指摘されています。 - 森林や自然を憩いの場や遊び場として活用する取組などが求められています。		自然環境保全と公園・緑地整備 天竜川を軸とした自然環境の保全と活用 天竜川やその周辺の自然環境を保全しつつ、親水施設や散策空間の整備を通じて、地域資源としての自然の活用と景観・治水の両立を図ります。 既存公園の再整備による多世代対応型空間の創出 既存の公園・緑地について、遊具や設備の更新、防災機能の強化、バリアフリー化を進め、子どもから高齢者まで多世代が快適に利用できる空間整備を推進します。 緑地ネットワークによる景観・交流環境の形成 街路樹や緑道、公園などを連携させた緑のネットワークを構築し、良好な景観の形成とあわせて、住民交流や環境学習の場としての活用を図ります。
	景観形成 田園景観や眺望 地域の魅力として田園風景や南・中央アルプスの眺望などが挙げられており、地域の財産である景観の保全が求められています。		景観形成 旧伊那街道の歴史的資源を活かした景観の保全 旧街道沿いに残る伝統的な街並みや建造物を保全・活用し、地域の歴史や文化が感じられる景観の形成と魅力発信を図ります。 幹線道路沿道の景観形成とデザイン誘導 主要幹線道路沿いの建築物や看板、植栽等に景観的配慮を促し、統一感あるまち並みの形成と地域イメージの向上を図ります。 住民参加による景観づくりの推進 景観育成住民協定の導入など、地域の魅力を住民自ら育む仕組みづくりを検討し、地域住民と行政の協働による景観形成を推進します。

(参考)地域別ワークショップによる課題と分野別の整備方針(東部地域)

住民ワークショップ結果による課題		分野別の整備方針	
都市防災	水害・土砂災害リスク ● 河川の流下能力の不足や水路の未整備による水害リスクが指摘されており、水害時の避難路確保や天竜川の流下能力の向上が求められています。 ● 河岸段丘における土砂災害の発生が懸念されており、土砂災害防止に向けた整備が求められています。 ● 災害リスクが高い場所における土地利用や建物の規制導入の必要性が指摘されています。 避難所の機能・避難路の安全性 ● 福祉避難所の不足、活断層上に立地する避難所の震災リスク、避難所の機能（電源、備蓄）不足など、避難所に関する課題が挙げられています。 ● 幅員が狭く危険な避難路への対応や、避難経路の明確化が求められています。 防災意識・組織連携 ● 住民間の付き合いの希薄化による災害時の助け合いへの支障、自主防災組織と区の連携不足、住民の危機意識の低さなど、防災意識の醸成と組織連携に課題があります。		都市防災 ● 天竜川流域の水害・土砂災害対策の強化 河川や斜面の防災インフラ整備、危険箇所のモニタリング強化などを通じて、自然災害への備えと地域の安全性向上を図ります。 ● 避難施設・避難路の安全性と機能性の向上 避難所の耐震化やバリアフリー対応、非常用電源の確保、避難経路の安全性向上を進め、誰もが安心して避難できる体制整備を推進します。 ● 地域と連携した防災体制の充実 自主防災組織の活動支援や防災訓練の実施、情報伝達体制の整備を通じて、災害時の地域連携と初動対応力の向上を図ります。
			下水道整備 ● 下水道施設の維持管理と機能更新の計画的推進 老朽化した管路や施設について、点検・修繕・更新を計画的に実施し、災害時も含めた安定的な下水道運用を図ります。 ● 整備対象区域の重点化と段階的な対応 人口や土地利用の状況に応じて整備の優先順位を定め、整備の効率化と住環境の向上を推進します。 ● 公共下水道未整備区域における生活排水処理の推進 公共下水道全体計画区域外の地域においては、個人設置型浄化槽の設置により生活排水を適切に処理する取組を推進し、衛生的な生活環境の確保に努めます。

(参考)地域別ワークショップによる課題と分野別の整備方針(南部地域)

住民ワークショップ結果による課題		分野別の整備方針		
土地利用	社会環境・居住環境 ● 人口増加に対して、区の役員のなり手不足や住民間の付き合いの希薄化などが指摘されています。 ● 身近な医療機関の不足やスーパーへのアクセスが不便で、自家用車がなければ生活がしづらい点が課題として挙げられています。 ● 山に近い地域では熊が出没しており、鳥獣被害への対策が求められています。 農地 ● 人口増加に伴い、虫食いの的に農地が宅地へ転用されているため、計画的な土地利用の推進が求められています。		土地利用	● 教育・研究を核とした拠点形成の推進 信州大学農学部や上伊那農業高等学校といった高等教育・研究機関が集積する特性を活かし、教育・農業・地域活動が連携する教育拠点の形成を推進します。 ● 農と共生する定住環境の整備 優良農地や自然景観と調和する土地利用を進めるとともに、既存集落や生活圏に配慮した宅地整備を行い、定住促進につながる住環境の確保を図ります。 ● 空家・未利用地の有効活用と農空間の保全 空家や未利用地の利活用を進めつつ、農業と教育の連携を促進する土地利用の最適化と農空間の保全を図ります。
	道路・交通施設整備			道路網 ● 生活道路の幅員が狭い箇所が多く、拡幅や舗装修繕が求められています。 交通利便性・安全性 ● 国道361号や伊那西部広域農道、村道8号線、村道10号線などにおいて歩道の未整備や劣化がみられ、歩行者や通学路の安全確保に向けた整備が求められています。 ● 公共交通の便が悪く、特に伊那市への移動手段が限られている点が課題として指摘されています。 ● 三叉路の多さ、幹線道路での車両の速度超過、通学路の横断歩道未設置、交差点の見通しの悪さなど、安全面での課題が指摘されています。 渋滞対策 ● 伊那西部広域農道などで、朝夕に渋滞が発生しており、対策が求められています。

20

(参考)地域別ワークショップによる課題と分野別の整備方針(南部地域)

住民ワークショップ結果による課題		分野別の整備方針	
公園・緑地整備と自然環境保全と	身近な森林 ● 身近な森林があり、子どもが自然と触れ合える環境の維持・充実が求められています。		公園・緑地整備と自然環境保全と ● 農村景観と里山環境の保全・活用 里山などの農村景観や自然環境を保全し、環境教育や体験型活動と結びつけた地域資源としての活用を図ります。 ● 既存公園の再整備による多世代対応型空間の創出 既存の公園・緑地について、遊具や設備の更新、防災機能の強化、バリアフリー化を進め、子どもから高齢者まで多世代が快適に利用できる空間整備を推進します。 ● 環境学習・交流機能を持つ緑の拠点づくり 教育施設や農地と連携した体験・学習の場として活用できる緑の空間を整備し、交流や学びの拠点づくりを推進します。
	田園景観の保全 ● 人口増加に伴い、虫食いの的に農地が宅地に転用されることで、田園景観の保全への影響や農家への負担増加が懸念されています。		景観形成 ● 文教地区にふさわしい景観の形成 信州大学農学部周辺を中心に、文教施設と調和する落ち着いた景観形成を図り、教育拠点としての品格ある環境形成を推進します。 ● 農村景観と調和する建築・開発の誘導 農村らしい景観の継承を図るため、宅地や施設の配置・色彩・形状に配慮した開発誘導により、地域との調和を促進します。 ● 地域主体の景観保全・育成活動の支援 地域住民による景観育成住民協定や緑化活動への支援を通じて、地域全体で景観の魅力と価値を守り育てる取組を推進します。

(参考)地域別ワークショップによる課題と分野別の整備方針(南部地域)

住民ワークショップ結果による課題		分野別の整備方針	
都市防災	水害・土砂災害リスク ● 国道361号の側溝が整備されていない場所において、大雨時に道路が冠水するなど、排水対策が課題です。 ● 沢尻コミュニティセンター周辺の地盤が脆弱であるため、土砂災害の発生が懸念されており、対策が求められています。 防災意識・ライフライン ● 地域全体の防災意識が低いなど、防災意識の醸成に課題があります。 ● 住宅地の範囲が広がることで、消火活動への影響（消火ホースが届かないなど）が課題として挙げられています。		都市防災 ● 水害・土砂災害等に対応した事前防災の強化 河川・用水路・斜面などの防災インフラ整備などを進め、農地や住宅を守るとともに、気候変動にも対応した事前防災の強化を図ります。 ● 人口動向に対応した避難施設と避難路の整備 人口動向を踏まえつつ、避難所の適正配置や避難路の整備を行い、すべての住民が迅速かつ安全に避難できる体制整備を推進します。 ● 地域密着型の防災体制の構築 住民主体の防災訓練・啓発活動を通じて、地域に根ざした防災力の強化を図ります。
			下水道整備 ● 下水道施設の維持管理と機能更新の計画的推進 老朽化した管路や施設について、点検・修繕・更新を計画的に実施し、災害時も含めた安定的な下水道運用を図ります。 ● 整備対象区域の重点化と段階的な対応 人口や土地利用の状況に応じて整備の優先順位を定め、整備の効率化と住環境の向上を推進します。 ● 公共下水道未整備区域における生活排水処理の推進 公共下水道全体計画区域外の地域においては、個人設置型浄化槽の設置により生活排水を適切に処理する取組を推進し、衛生的な生活環境の確保に努めます。

(参考)地域別ワークショップによる課題と分野別の整備方針(西部地域)

住民ワークショップ結果による課題		分野別の整備方針	
土地利用	社会環境・居住環境 ● 人口増加に対して、区の役員のなり手不足や住民間の付き合いの希薄化などが指摘されています。 ● 空家の増加が懸念されており、空家の適正管理・活用が求められています。 ● バリアフリーに対応した村営住宅の整備など、高齢者や障がい者などが利用しやすい公共施設や環境整備が求められています。 ● スーパーへのアクセスが不便で、自家用車がなければ生活がしづらい点が課題として挙げられています。 ● 中央自動車道や幹線道路における騒音への対策が求められています。 農地 ● 後継者不足による農地の維持の困難さや、宅地化の進行による営農環境への影響が懸念されています。 ● 工業団地の造成が進行することで、周辺の営農環境への影響が懸念されています。		土地利用 ● 交流・防災拠点を核とした土地利用の形成 大芝高原を中心に、観光、保健、福祉、産業などの多機能が連携する土地利用を進め、村内外の交流を促す拠点性の高いエリアづくりを推進します。 ● 自然と調和した定住環境の確保 自然環境との共生を前提に、生活利便施設とのバランスを考慮した宅地整備を進め、定住促進につながる魅力ある住環境の形成を図ります。 ● 公共施設や観光資源の利活用による土地の有効活用 未利用地や既存施設の再編を通じて、大芝高原周辺を中心とした滞在・体験・交流機能の充実と土地の有効利用を推進します。

(参考)地域別ワークショップによる課題と分野別の整備方針(西部地域)

住民ワークショップ結果による課題		分野別の整備方針	
道路・交通施設整備	道路網	道路・交通施設整備	
	● 人口規模に対して幹線道路や生活道路の幅員が狭いこと、道路の凹凸や段差の解消、車道と歩道の視覚的な区分、東西方向の道路交通の不便さが課題として挙げられています。		● 大芝高原へのアクセス性向上 交流・防災拠点である大芝高原へのアクセス性向上を図るため、幹線道路の整備や駐車場の分散配置などを通じて、交通利便性の向上を図ります。
	交通利便性・安全性		● 地域交通と観光交通の連携強化 観光客と地域住民の双方に対応する公共交通や交通結節点の整備を行い、公共交通の利便性と持続性の確保を図ります。
	● 大芝高原交差点における歩行者の安全対策が課題として挙げられています。		● 滞在環境を支える歩行者空間の整備 大芝高原内の歩道や森林セラピーロードなどの歩行者空間の整備を通じて、誰もが快適に利用できる滞在・周遊環境の形成を図ります。
	● 小学校が遠いことによる通学の安全性、幹線道路での車両の速度超過、大型車の通行や冬季の道路凍結による危険性など、安全対策が課題です。		
	● 生活道路から(主)伊那箕輪線へ合流しづらい、伊那西部広域農道の大芝高原交差点で右折がしづらい、幹線道路や生活道路における事故の増加などが懸念されています。		
	渋滞対策		
	● 大泉交差点や久保・北原交差点における朝夕の交通渋滞への対応として、右折レーンの設置や青信号時間の延長などの渋滞対策が求められています。		

(参考)地域別ワークショップによる課題と分野別の整備方針(西部地域)

住民ワークショップ結果による課題		分野別の整備方針	
自然環境保全と公園・緑地整備	河川環境 - 大泉川沿いの草の繁茂、河川敷のゴミの清掃など、河川環境の保全が求められています。 公園・緑地 - 大芝高原内の歩道や森林セラピーロードのバリアフリー化による段差解消など、ユニバーサルツーリズムの推進が求められています。		自然環境保全と公園・緑地整備 森林と水辺環境の保全と利活用 大芝高原の森林や水系などの自然環境を保全しつつ、大芝高原内の施設と自然を有機的につなぐ緑のネットワークを形成し、保養・教育・交流の拠点として活用を図ります。 大芝高原のバリアフリー化と快適性の向上 多世代・多様な利用者に配慮し、公園・歩道・休憩施設などのバリアフリー対応を進め、快適で安全な滞在空間の整備を推進します。 既存公園の再整備による多世代対応型空間の創出 既存の公園・緑地について、遊具や設備の更新、防災機能の強化、バリアフリー化を進め、子どもから高齢者まで多世代が快適に利用できる空間整備を推進します。
	景観形成 山岳景観の保全 大芝高原やアルプスの景観など、地域の美しい景観の保全が求められています。		景観形成 自然と調和した景観の維持と活用 アルプスや森林などの自然景観を活かし、開放感と癒しを感じられる滞在環境を維持・活用する景観形成を推進します。 統一感のある観光施設デザインの誘導 大芝高原の建物や案内板などにおいて、素材・色彩・形状のガイドラインを導入し、統一感のある景観形成を図ります。 協働による景観づくりの推進 観光関係者や地域住民と連携し、花や緑を活かした景観整備や修景活動など、協働による景観づくりを推進します。

(参考)地域別ワークショップによる課題と分野別の整備方針(西部地域)

住民ワークショップ結果による課題		分野別の整備方針	
都市防災	水害・土砂災害リスク ● 用水路の排水能力の向上、大泉川の河川改修、工業団地における雨水排水対策など、大雨時の水害対策が求められています。 ● 森林伐採による土砂流出が懸念されており、対策が求められています。 避難所の機能・避難路の安全性 ● 災害発生時の避難所の不足、防災用品・食料備蓄の不足、福祉避難所機能の不足など、避難所の確保や機能拡充が求められています。 ● 幅員が狭く危険な避難路への対応や、避難経路の明確化が求められています。 防災意識 ● 過去の被災箇所の情報発信など、防災意識の醸成に向けた取組が求められています。		都市防災 ● 大泉川流域の水害対策の強化 河川や斜面の防災インフラ整備、危険箇所のモニタリング強化などを通じて、水害への備えと地域の安全性向上を図ります。 ● 広域防災拠点としての防災機能の整備 広域防災拠点としての役割を果たす大芝高原について、非常用電源・備蓄倉庫・仮設トイレなどの整備により、災害時の受入体制の強化を推進します。 ● 地域連携による防災体制の充実 地域住民と観光施設の連携を強化し、避難訓練や情報共有体制の整備を通じて、災害対応力の向上を図ります。
			下水道整備 ● 下水道施設の維持管理と機能更新の計画的推進 老朽化した管路や施設について、点検・修繕・更新を計画的に実施し、災害時も含めた安定的な下水道運用を図ります。 ● 整備対象区域の重点化と段階的な対応 人口や土地利用の状況に応じて整備の優先順位を定め、整備の効率化と住環境の向上を推進します。 ● 公共下水道未整備区域における生活排水処理の推進 公共下水道全体計画区域外の地域においては、個人設置型浄化槽の設置により生活排水を適切に処理する取組を推進し、衛生的な生活環境の確保に努めます。